

高鍋湿原学術調査報告書

高鍋湿原の植物



調査日 : 2024 年 4 月 12 日～11 月 7 日

調査者 南谷 忠志 (宮崎市)
宮崎植物研究会 日本植物学会会員
赤木 康 (日向市)
宮崎植物研究会 日本シダの会会員

目 次

はじめに	2
I 高鍋湿原の重要な希少植物と生育地点	3
I-1. 高鍋湿原の重要な希少植物	
I-2. 希少植物の生育地点	
II 高鍋湿原の植生～植生概観と代表的植物群落	16
III 高鍋湿原の植物の構成	21
III-1. 確認された植物	
III-2. 種類数内訳	
III-3. 湿原の希少種	
IV 花暦	35
V 高鍋湿原の希少種解説	40
VI 保全への提言	49
VII 参考文献	49

はじめに

高鍋湿原が発見され現在に至った経緯をまとめると

- ・ 1962～1967：防災ダム建設
- ・ 1974：南九州大学生の内藤君が湿原を発見。南九州大学の戸田教授の依頼で、南谷忠志も同年に訪れ調査した。
- ・ 1980：南谷忠志は高鍋高校へ異動、東児湯地区の湿原を調査した。
- ・ 1985：南谷忠志は「宮崎県高鍋台地の植物」を植物と自然（ニューサイエンス社）に発表
- ・ 1989：「我が国における保護上重要な植物種の現状」（日本最初のレッドデータブック）に紹介～日本における保護を必要とする種の生育地が集中している地域として、北海道の湿原、小笠原、南西諸島や阿蘇・九重の草原、及び「東児湯地区の湿原」等8地域が紹介された。
- ・ 1992：高鍋湿原保全検討委員会（宮崎県主催）が立ち上がる。
- ・ 1993～95：児湯農林振興局が整備し、歩道や柵を設置。
- ・ 1996：宮崎植物研究会と高鍋町民が保全活動開始。
- ・ 1998：高鍋町に移管され、6月26日に公開。

※高鍋湿原の植物の貴重さは個人の調査で明らかになったものの、公的調査が入ったのは1993年に宮崎県が企画し、東児湯地区3町（川南・高鍋・新富）から各6か所の湿原を選定しての調査が実施され、「東児湯地区湿地湿原調査報告書～植物篇」としてまとめられた。高鍋湿原には295種が確認されている。

公開されたものの、その後は水質の富栄養化が進み、荒廃が目立つようになった。そのような状況下で高鍋町民の岩村進氏が中心となって高鍋湿原保存会が結成され保全が始まり、見違えるような湿原になっていった。その後、町も高鍋湿原保存検討会を立ち上げ、ようやく公的な保全保護がスタートした。

- ・ 2008：県の「重要生息地」に指定。
- ・ 2013：町による湿原の植物調査が実施。

1993年の調査後20年が経過し、湿原を構成する植物相に消失したもの、新たに出現したものも見受けるようになった。そのため、町は新たな植物相の調査を実施することにした。南谷忠志と赤木康が町の依頼を受け、2013年に10回の現地調査を実施し、その内容を高鍋湿原学術調査報告書「高鍋湿原の植物」を作成した。

- ・ 2024：2回目の植物調査を実施。

南谷忠志と赤木康が町の調査依頼を受け、池田たえ子氏にも加わってもらい、4月12日～11月7日にかけて9回の現地調査を行ない、本報告書を作成した。

- ・ 2024：10月22日：ハーバード大学植物園のアーノルド博士とサラシャク氏が来訪され、入口に植栽のタカナベカイドウを調査。

現在は、高鍋湿原ボランティアガイドの会（会長：池田たえ子氏）及び高鍋町教育委員会が保全管理を行っており、湿原保全のモデルとも言える見事な湿原が維持されている。

I. 高鍋湿原の重要な希少植物と生育地点

高鍋湿原には希少種が多い。DNA 解析により、固有な新種が確認されている。

I-1. 高鍋湿原の重要な希少植物

1. 川南・高鍋湿原だけの固有種(世界で唯一の産地)

(1) 2024 年に正式記載された植物

2024 に新種記載されたオスズネジバナ: *Spiranthes minamitaniana* Suetsugu



オスズネジバナ

図の A: 柱頭、B: 花粉塊

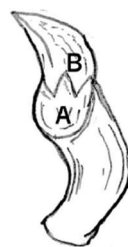
・ネジバナは花茎や子房に短毛が多生する。柱頭は円形。小嘴体が受粉を遮るので、自家受粉ができないので訪花昆虫が来る。花は6月中下旬。

・ハチジョウネジバナは各地にあり、草地にある。花は5月中下旬で早い。

・オスズネジバナはハチジョウネジに似ているが柱頭が微妙に異なる。川南・高鍋湿原にしかなく、湿地に生える。花は5月下旬。西部湿原で見ることができる。



ネジバナ



ハチジョウネジバナ



オスズネジバナ



ネジバナ



ハチジョウネジバナ



オスズネジバナ

宮崎県に自生するネジバナ類

※和名の「オスズ」の由来: 尾鈴山系に降った雨が地下に潜り、川南・高鍋湿原で湧水になって湿原に注ぐ。その水に育まれている植物なので、尾鈴の名を冠した。以下のオスズを冠したのも同様である。

(2) DNA 解析で新種とされた 2 植物：正式記載はこれから



オスズハルリンドウ (仮称)



オスズサギソウ (仮称)

- ・オスズハルリンドウ：ハルリンドウは草原性のもの。川南・高鍋湿原のものは湿地性。DNA は北国の高山性の湿地に生えるタテヤマリンドウに近いもので、別種とされている。
- ・オスズサギソウ：これまでサギソウとされていたが、川南湿原のものは DNA 解析により別種とされ、距が長く、ロゼット葉は細く小さい。高鍋湿原のサギソウにも同じものが含まれるが、他の植物と混生しているので、見分けは難しい。

(3) 高鍋湿原だけに出来た新植物

①タカナベツツジ (南谷仮称) *Rhododendron tosaense* × *Rhododendron kaempferi*



タカナベツツジ

淡いピンクのフジツツジと紅色のヤマツツジが自然交配して出来たもの。東部湿原の遊歩道沿いに 2 株ある。DNA 解析で証明されている。雑種なので、種子は出来ない。

②タカナベリンドウ（南谷仮称）



タカナベリンドウ



左：リンドウ 右：タカナベリンドウ

川南湿原には葉が細く、斜上する固有種のヒュウガホソバリンドウがある。高鍋湿原にもかつては自生していたと思われるが今は見出せない。タカナベリンドウはリンドウとヒュウガホソバリンドウとの自然交配種。葉が広く横に開くリンドウとの中間形となる。

2. 日本では川南・高鍋湿原だけに生える植物

ハラヌメリ : *Sacciolepis myosuroides* Chase ex E. G. et A. Camus



ハラヌメリ



ヌメリグサ類3種

高鍋湿原には3種のヌメリグサ類が生えている。右図の左からヌメリグサ・ハイヌメリ・ハラヌメリの花序と葉。ハラヌメリは全体的に大型である。

3. 九州では児湯地方の湿原だけに生える植物



サクラバハシノキ(雄花拡大)

ヘビノボラズ(花・果実)

ミズギボウシ

4. 高鍋湿原はなんとササ類の宝庫であった～ササ類が 10 種も

ササ類の分類は厄介なので、2013 年の調査では無視していた。どの県もササ類の調査をまともに実施していないようであるが、宮崎県では、2015～2020 年にかけて徹底的に調査し、40 種ほどのササ類が確認されている。

高鍋湿原には 9 種が確認され、狭い範囲に 9 種もあることは特筆すべきものである。



ウツクシザサ

イヌトクガワザサ

イブキザサ

ササ類図鑑では上記の 3 種とも九州の記録がないので、九州初確認となる。他にも、アリマシノ・ウンゼンザサ・オニクジョウシノ・ケナシカシダザサ・ヒロウザサ・メダケ・ネザサが確認されている。

5. 高鍋湿原に多様なトダシバ類が分化

イネ科のトダシバ類は図鑑にも2種しか掲載されていない植物であるが、九州大学名誉教授の矢原先生等がDNA解析により、13種3亜種となった。正式発表はこれからになる。それらの内、高鍋湿原にもクジュウトダシバ・セイタカトダシバ・ツクシトダシバが確認され、他にも高鍋湿原固有のものもありそうである。要調査の植物群である。



セイタカトダシバ



ツクシトダシバ



固有なトダシバの一種

6. 高鍋湿原はホシクサ類の宝庫



ホウキボシイヌノヒゲ



アマノホシクサ



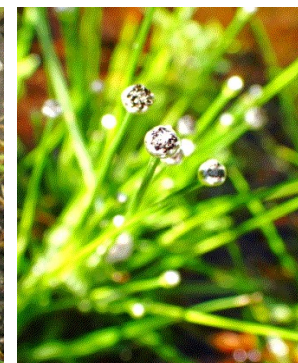
オオホシクサ



ニッポンイヌノヒゲ



クロホシクサ



ツクシクロイヌノヒゲ



シロイヌノヒゲ



イトイヌノヒゲ

7. その他の希少植物



シロバナネジバナ



ミヤマナルコユリ



ノテンツキ



ミズトンボ



ニラバラ



ミカワシンジュガヤ



ヒナノカンザシ



ツクシタチドコロ



クロタマガヤツリ



カガシラ



コキンバイザサ



カキラン



ホザキノミミカグサ



ムラサキミカグサ (花と地下茎の捕虫網)



ヒメノボタン



ゴマクサ



カザグルマ



アイミソハギ・ミソハギ

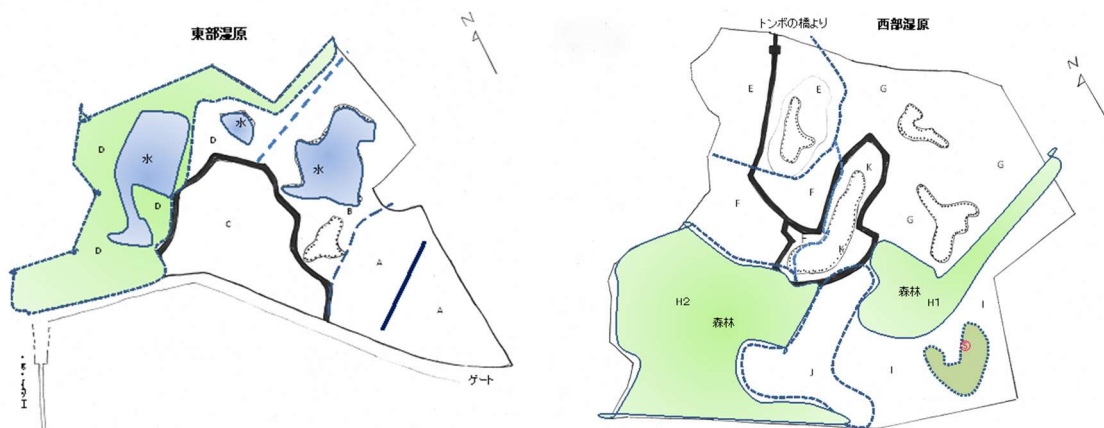
I-2. 希少植物の生育地点



高鍋湿原の平面図

高鍋湿原はゲートを入ると、東側に東部湿原があり、宮田川をトンボの橋で渡ると西部湿原に入る。どちらも設置された遊歩道に沿って一巡できる。

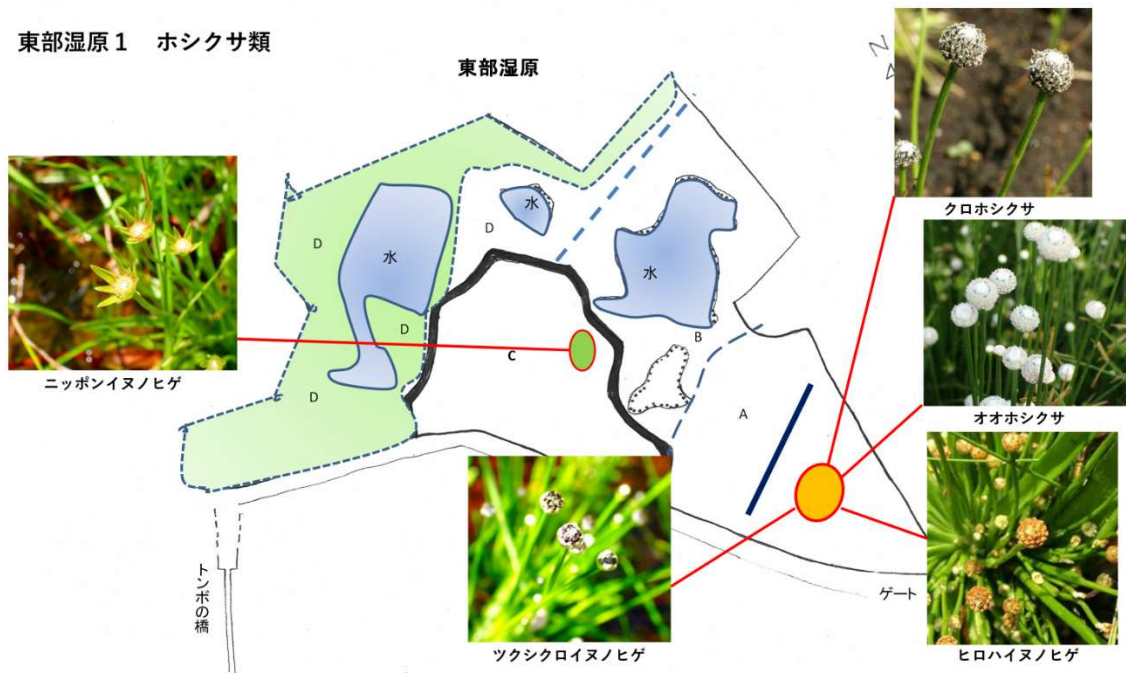
遊歩道以外にも希少植物が生育しているが、遊歩道設置に伴い希少植物がダメージを受けるので、保護の観点から、遊歩道からは全植物を見ることが出来ない。



両湿原をA～Kのゾーンに分けた位置図

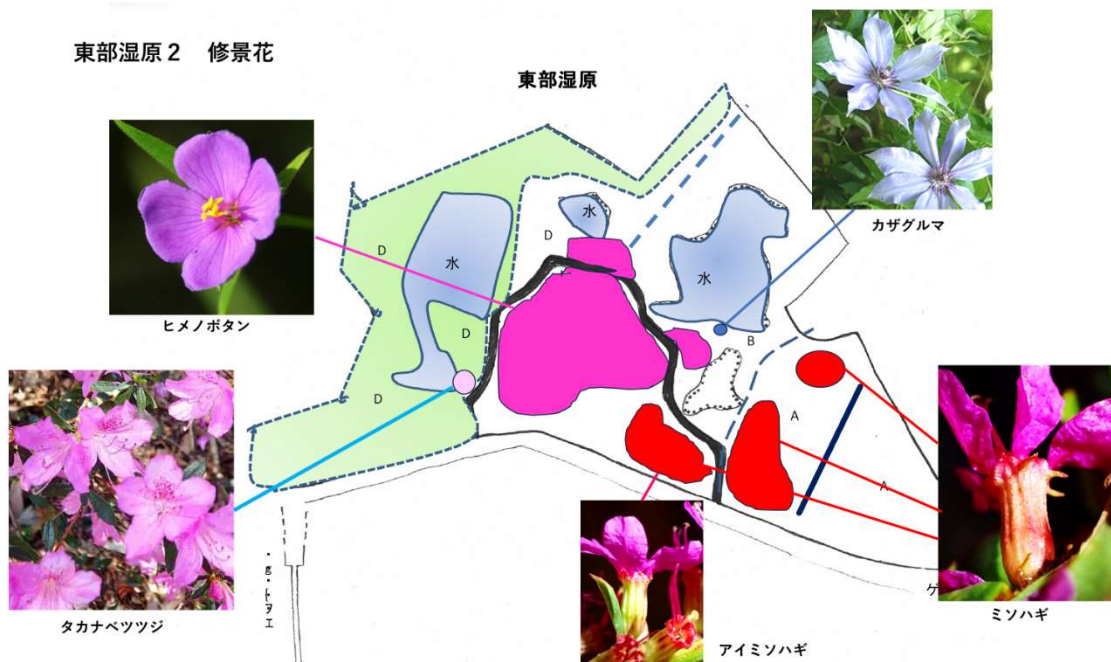
より詳細に生育地点が分かるように11か所にゾーンを分けている

東部湿原 1 ホシクサ類

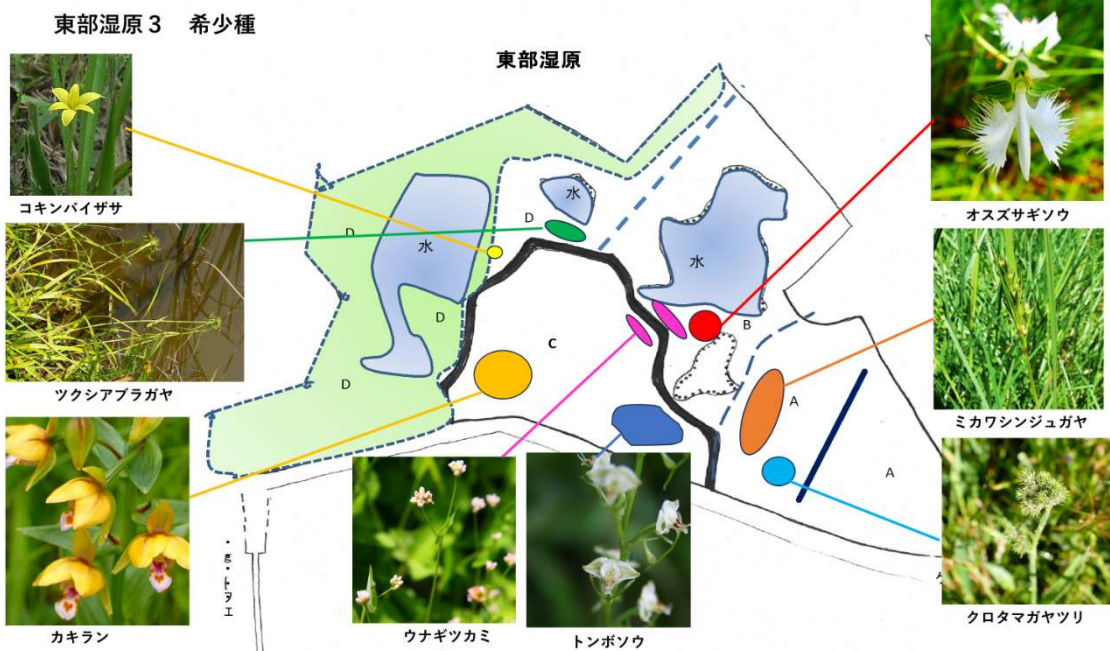


東部湿原 1：多くのホシクサ類が生える。群生するオオホシクサは見事である。

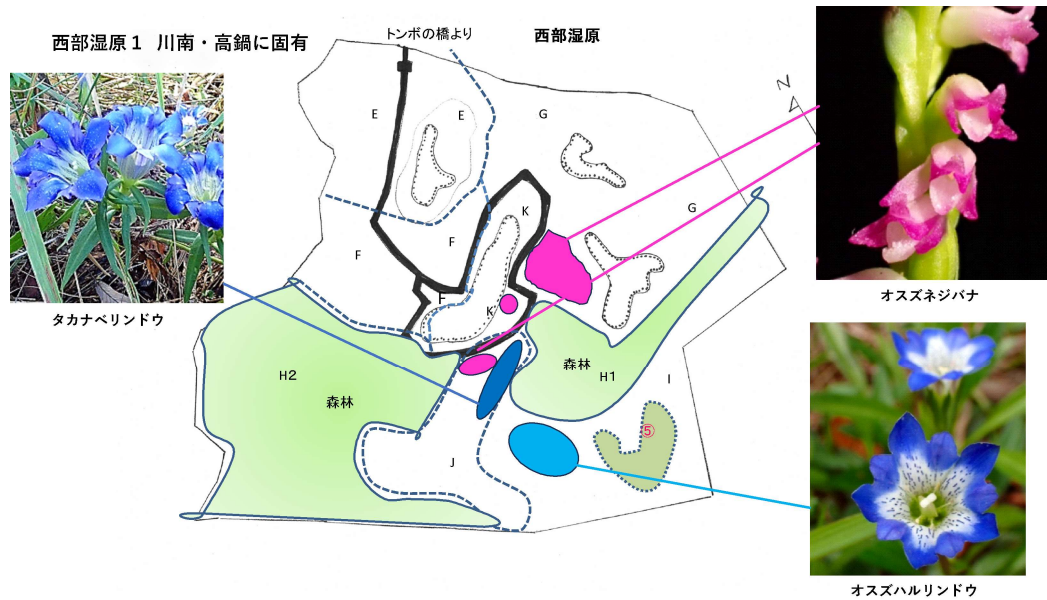
東部湿原 2 修景花



東部湿原 2：東部湿原を彩る希少植物。ヒメノボタンとミソハギはピンクの絨毯となる。

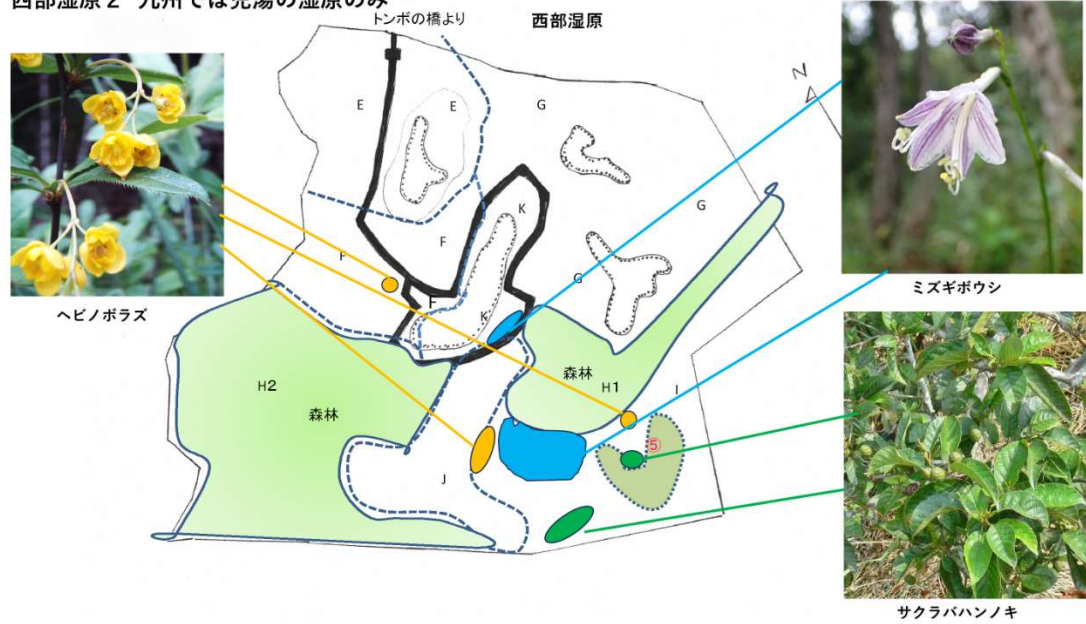


東部湿原 3：サギソウは新種となる。ウナギツカミ生育地にはアキノウナギツカミが混生するが、花期が異なり、ウナギツカミは5月開花。



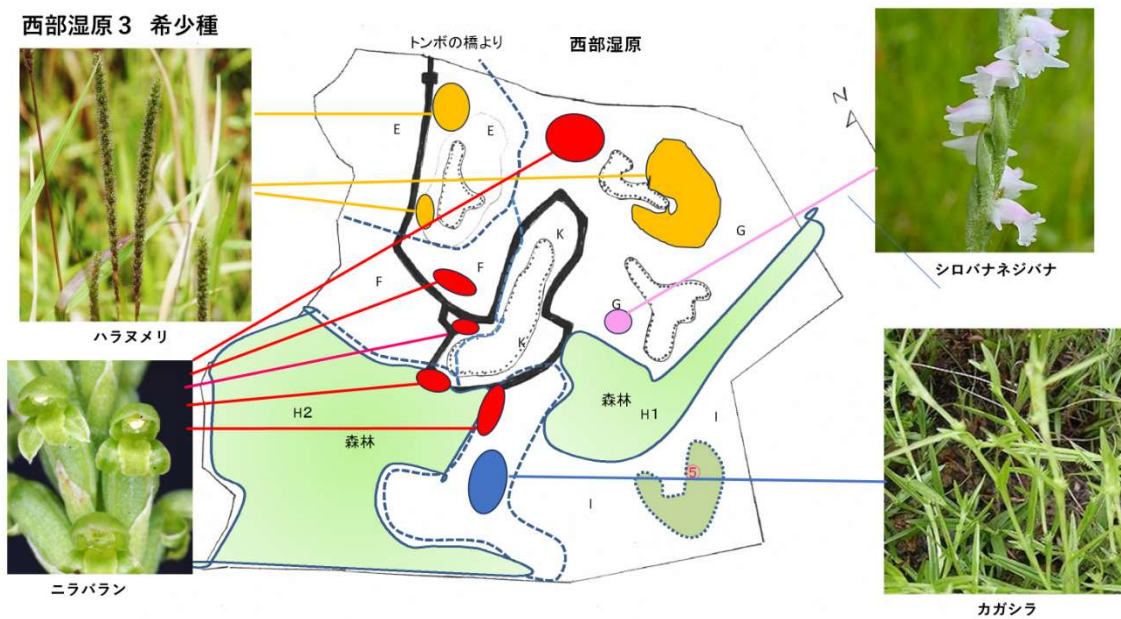
西部湿原 1：いずれも川南湿原と高鍋湿原にしかない。オスズネジバナは川南湿原より高鍋湿原の方がはるかに多い。

西部湿原 2 九州では児湯の湿原のみ



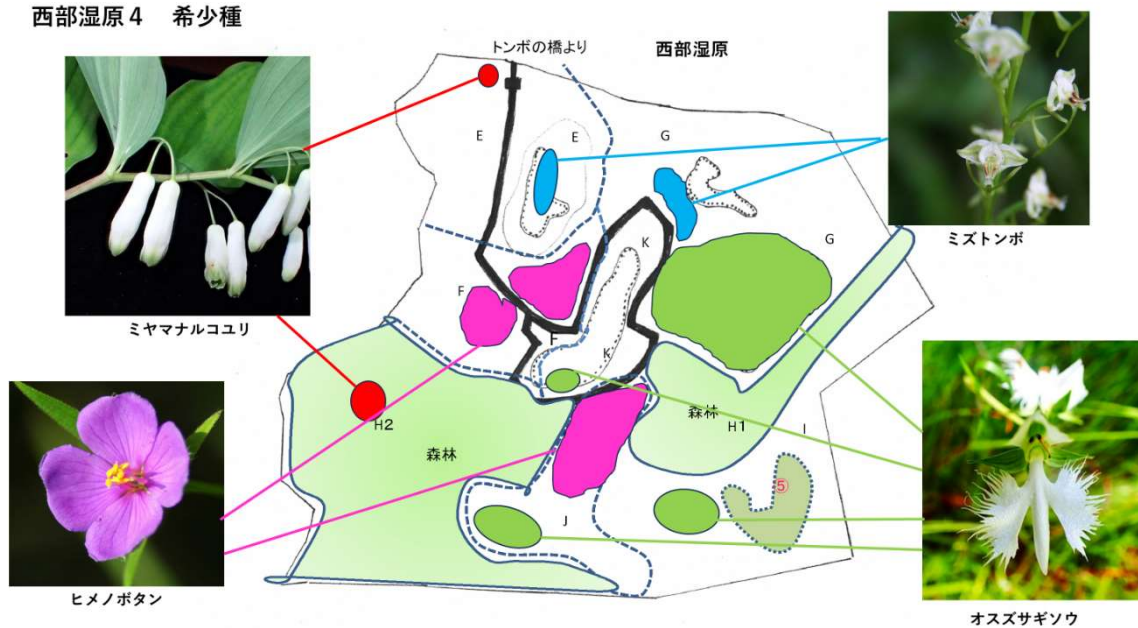
西部湿原 2：これら 3 種は九州が南限地で川南・高鍋・新富町の湿原にしかない。

西部湿原 3 希少種



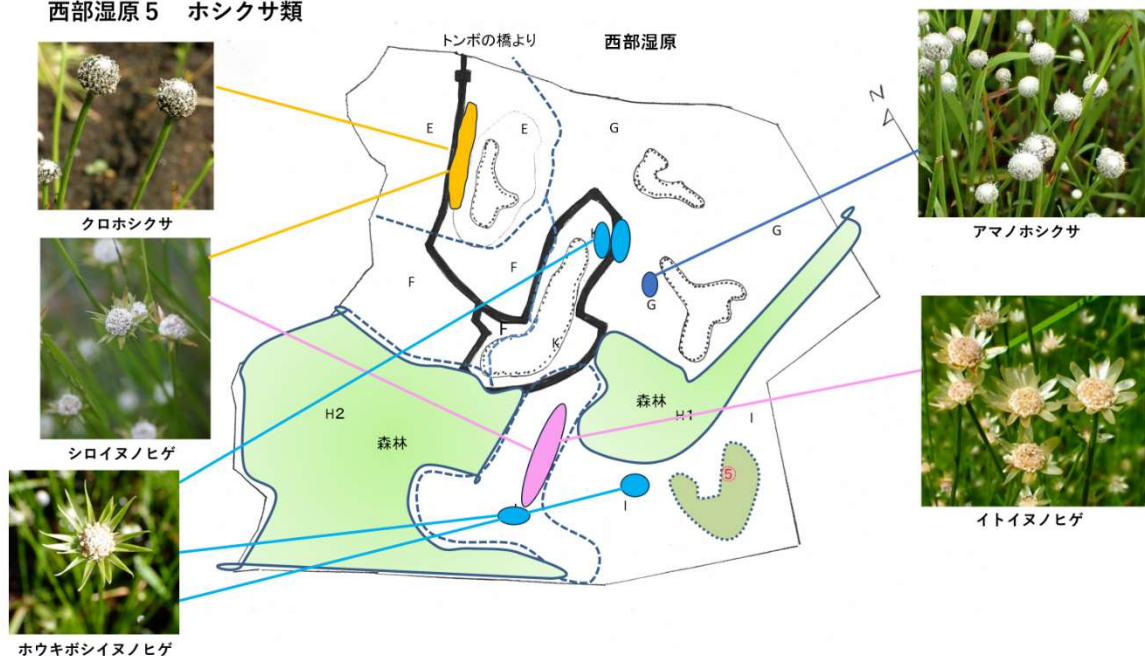
西部湿原 3：カガシラは他ではほぼ見られなくなったが、高鍋湿原には多い。ハラヌメリは国内では川南・高鍋湿原でしか見られない。

西部湿原 4 希少種



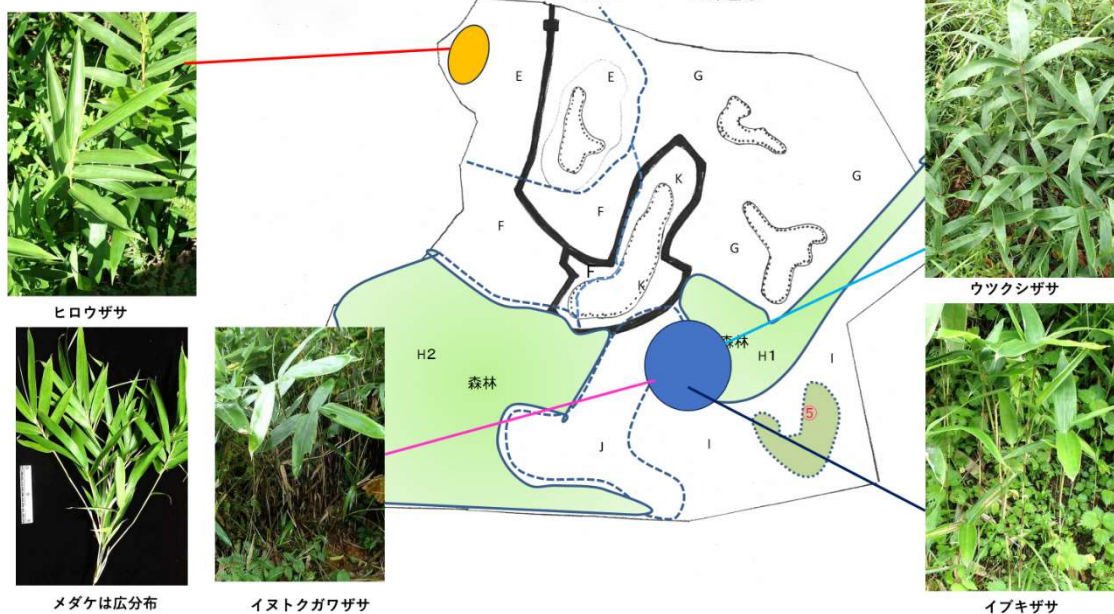
西部湿原 4：川南・高鍋湿原に生えるサギソウは他地域のものと異なり別種となる。ヒメノボタンは東湿原だけでなく、西湿原にも多い。

西部湿原 5 ホシクサ類



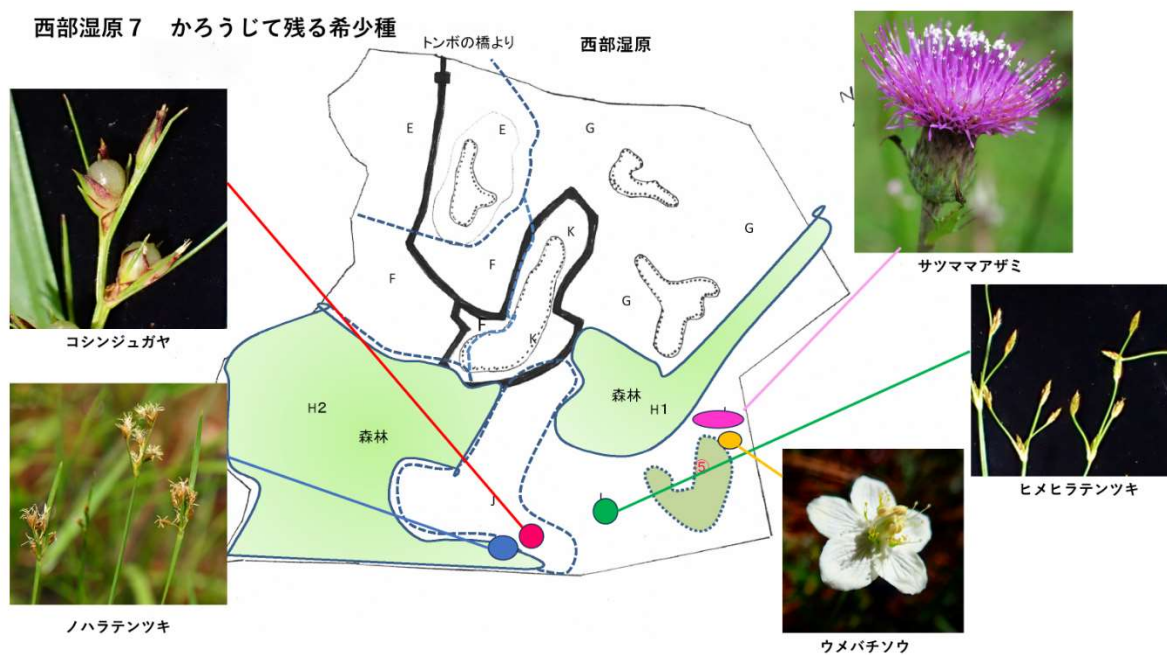
西部湿原 5：過湿地にはホシクサ類が多い。J ゾーンにはシロイヌノヒゲとイトイヌノヒゲの雑種も見られる。アマノホシクサは減少が進み絶滅寸前である。

西部湿原 6 多様なササ類



西部湿原 6 : H1 の林内には九州に記録のないササ類が 3 種もある。画像を撮らなかったが、他にウンゼンザサもある。

西部湿原 7 かろうじて残る希少種



西部湿原 7 : 遊歩道から見ることはできない、森林の奥にも希少種があるが、樹木の繁茂で光量が弱くなり極端に減少している。

II 高鍋湿原の植生～植生概観と代表的植物群落

ほぼ、順路に併せて記載している。

数字は被度・群度を、アルファベットは地区を、数字は調査ポイントを示している。

太字の植物名は希少種である。

東部湿原(E)

東部湿原は多様な環境がある。A地区は冠水するほどの過湿地で、南側はコガマとヒメガマの純群落、北側はミソハギ群落、カンガレイ・ホシクサ類群落、イヌノハナヒゲ類群落となっている。C地区はネムノキ・シリブカガシ・ヒサカキが入り込んだ乾性草地と小さな凹地がある。乾性草地には、ヒメノボタン・ゴマクサ・トダシバ類・チガヤ・メドハギが繁茂しており、凹地は湿地となり、オオイヌノハナヒゲが繁茂し、過湿の場所にはミミカキグサやニッポンイヌノヒゲが生えている。B・D地区には池があり、浅い池にはヒメガマが、深めの池には縁にカンガレイとヒメガマが疎に生えている。D地区の森にはクス・シロダモ・コジイ・ナナメノキ・シリブカガシ・ヤブツバキやネコノチチ等が生え、林冠にはカギカズラやアケビが生えている。林内にはツクシタチドコロやギフベニシダ等の希少植物がある。



東部湿原の群落調査地点位置図

A-① 入口のミソハギ群落

植物高 80cm 被植率 100%

ミソハギ	5・5	クロホシクサ	1・2	ミミカキグサ	＋・2	カンガレイ	＋・2
オギノツメ	＋	サワヒヨドリ	＋・2	ヌマトラノオ	＋・3	ヒメジソ	＋

※2013年より、ミソハギが繁茂している。

A-② 新出した小型のミソハギ群落

植物高 50cm 被植率 100%

ミソハギ 5・5 チゴザサ 3・5 ツルナシコアゼガヤツリ 1・2
 オオイヌノハナヒゲ +・4 イヌノハナヒゲ +・3

※2013 年にはなかった場所にミソハギが新たに浸出した群落。

A-③ オオホシクサ・クロタマガヤツリ群落

植物高 80cm 被植率 80%

オオホシクサ 5・4 カンガレイ 3・3 クロタマガヤツリ 1・2
 クロホシクサ + ヒロハイヌノヒゲ + シソクサ 2・4
 サワトウガラシ 1・4 ミミカキグサ +・3 ハイヌメリ +
 ツルナシコアゼガヤツリ +・2 ヒデリコ +・2 シカクイ +・2
 コウガイゼキショウ +

※2013 年には 5 種類のホシクサ類とクロタマガヤツリが繁茂していたが、クロホシクサ・クロタマガヤツリが激減し、ニッポニンヌノヒゲは見当たらなかった。水位の調節を検討すべきであろう。

C-④ ミズトンボ・アイミソハギ※群落

植物高 100cm 被植率 100%

ミズトンボ 2・4 クグテンツキ 2・4 サワヒヨドリ 2・4 チゴザサ 3・4
 ミツバツチグリ 3・3 ヒメガマ 1・2 アイミソハギ 1・2 シカクイ +・3
 ミカワシンジュガヤ +・2 リンドウ +・2 クジュウトダシバ +・2
 ヒメジソ +・2 アゼガヤツリ +・3 タチスズメノヒエ +

※エゾミソハギとミソハギがハギの雑種

C-⑤ ヒメノボタン・ゴマクサ群落

植物高 80cm 被植率 100%

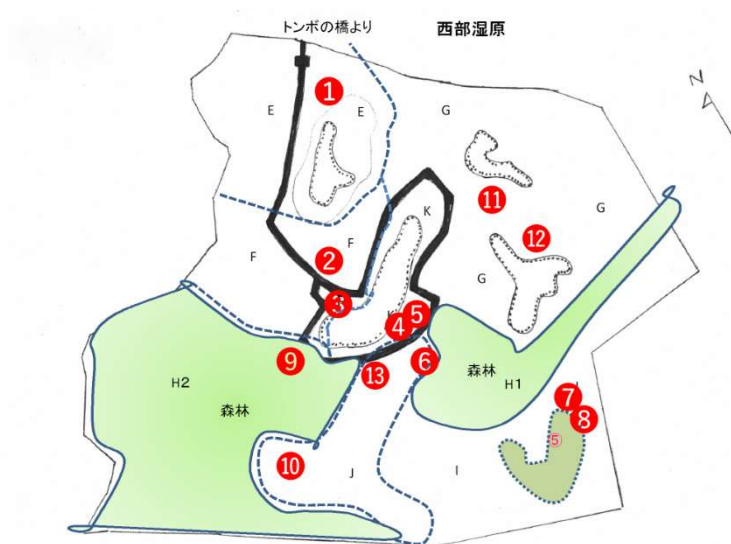
ヒメノボタン 3・4 ゴマクサ 1・2 チガヤ 3・5 サワヒヨドリ +・2
 ツクシトダシバ 2・3 ヒメオトギリ +・2 ナツフジ + コブナグサ +
 メリケンカルカヤ +

西部湿原(W)

西部湿原入口の窪地(E 地区)は湿地になっており、冠水した凹地にはカンガレイ・スイランやホシクサ類が生え、やや乾燥気味の凸地はススキ・セイタカトダシバやヒメジソが目立つ。この窪地にはハラヌメリ・ミズトンボやホシクサ類等の希少種がある。F 地区は乾燥した草地でヒメノボタンが全面に生えている。G 地区は湿性草地でオオイヌノハナヒゲが優先し、中にオスズサギソウやミズトンボが全面に生えている。H 地区は森林でクリ・クロキ・ヤマハゼ・ヒサカキ・クマノミズキ・エゴノキやアセビ・アオモジが生え、湿地には希少種のサクラバハノキも見られる。I 地区は湿性草地で、陽当たりの良い場所にはサツマアザミが生え、陽当たりの良くない場所にはオスズハルリンドウ・ノテンツキ・ヒメヒラテンツキやウメバチソウ等の希少種がかるうじて生き残っている。J 地区には、ヒメノボタンやゴマクサが生える乾性草地とカガシラやシロイヌノヒゲ・イトイヌノヒゲが生える湿性草地がある。K 地区は中央に池があり、池畔にはカモノハシ・スイラン・シロイヌノヒゲ・コバナノワレモコウ・ミズトンボやヨシ等

の湿性植物が生え、池上にはニラバランやイトスズメガヤが生える乾性草地やサギソウやミミカキグサ類が生える過湿の湿地がある。

西部湿原の群落調査地点位置図



E-① カンガレイ・ホシクサ類群落 湿生草地・冠水地 植物高 80cm 被植率 100%

カンガレイ 3・3 ホウキボシイヌノヒゲ 3・3 クロホシクサ +・2
 ニッポンイヌノヒゲ + ハラヌメリ +・2 ミズトンボ + チゴザサ 1・2
 ハイヌメリ +・2 タチコウガイゼキショウ +・2 スイラン + ヒメジソ +
 シラゲヒメジソ + コブナグサ + サワヒヨドリ + セイタカトダシバ +
 オオハリイ + オオイヌノハナヒゲ +

F-② ヒメノボタン群落 植物高 40cm 被植率 80%

ヒメノボタン 4・5 ツクシトダシバ 2・3 チガヤ 2・4 ネコハギ 1・2
 ヤハズソウ +・2 ナツフジ + ヒメオトギリ + イトスズメガヤ +

W-K-③ イトスズメガヤ・ニラバラン・ヒメノボタン群落 植物高 40cm 被植率 60%

イトスズメガヤ 3・5 ニラバラン 2・3 ヒメノボタン 2・2 チガヤ 2・3
 メリケンカルカヤ 1・3 メドハギ + ゴマクサ + マネキシシジュガヤ +
 クジュウトダシバ + オオイヌノハナヒゲ +

K-④ オスズサギソウ群落(ハッチョウトンボ棲息地) 植物高 45cm 被植率 95%

サギソウ 1・2 カリマタガヤ 4・4 アオコウガイゼキショウ 2・3
シロイヌノヒゲ 2・4 スイラン 1・2 チゴザサ 2・3 イヌノハナヒゲ 1・3
ミミカキグサ +・5 オオイヌノハナヒゲ 1・2 アブラガヤ + カモノハシ +
ホザキノミミカキグサ +・2 シカクイ + ミズトンボ +

K-⑤ ミズギボウシ・カキラン群落 植物高 80cm 被植率 100%

ミズギボウシ 2・2 カキラン 1・2 カモノハシ 3・3 コバナノワレモコウ 2・2
ホウキボシイヌノヒゲ 2・3 オオイヌノハナヒゲ 2・4 ミミカキグサ +
ヘビノボラズ + ヒメシロネ +・2 サワヒヨドリ + アブラガヤ +

K-⑥ オミナエシ・ヒメノボタン群落 植物高 80cm 被植率 100%

オミナエシ 1・3 ヒメノボタン 2・4 コイヌノハナヒゲ 2・4 カモノハシ +
ネザサ 2・4 ツクシトダシバ 2・4 メリケンカルカヤ +・2 スイラン +・2
ゴマクサ + リンドウ +

I-⑦ サツママアザミ・ハラヌメリ群落 植物高 80cm 被植率 100%

ハラヌメリ 2・3 サツママアザミ 3・4 ヒメジソ 2・3 コブナグサ 1・3
シロイヌノヒゲ 1・2 ササクサ + サワシロギク + ハリガネワラビ +
ヤワランダ +

I-⑧ ウメバチソウ・カモノハシ群落 植物高 70cm 被植率 100%

カモノハシ 5・5 ウメバチソウ + コバナノワレモコウ 2・2 スイラン +
サワシロギク 1・2 オオイヌノハナヒゲ 1・3 ハリガネワラビ +・2
ホウキボシイヌノヒゲ + ツクシトダシバ +

※ウメバチソウ：30株 日光不足と遷移進行でかろうじて生きている。

J-⑨ ヒメノボタン・ゴマクサ群落 乾燥草地 植物高 80cm 被植率 90%

ヒメノボタン 2・3 ゴマクサ 1・3 ツクシトダシバ 1・3 スイラン +・2
カリマタガヤ 1・3 イヌノハナヒゲ 1・2 ヤマイ 1・2 カモノハシ 1・2
コバナノワレモコウ +・1 メリケンガルカヤ +

J-⑩ カガシラ・シロイヌノヒゲ群落 湿性草地 植物高 60cm 被植率 100%

ヘビノボラズ + シロイヌノヒゲ 2・5 カガシラ 2・3 ミズトンボ +
コイヌノハナヒゲ 5・5 イトイヌノハナヒゲ 3・5 カリマタガヤ 3・4
チゴザサ 2・4 イトイヌノヒゲ 1・2 アオコウガイゼキショウ +・2
ホザキノミミカキグサ +・2 ミミカキグサ +・3 アブラガヤ +
コケオトギリ + シカクイ +

G-⑪ ミズトンボ・サギソウ群落 湿性草地 植物高 100cm 被植率 100% 5×5m

ミズトンボ 1・2 サギソウ +・3 オオイヌノハナヒゲ 4・5
ヒメオトギリ 2・3 ヒカゲヒメジソ 2・3 コバナノワレモコウ +・2

G-⑫ ミカワシンジュガヤ・サギソウ群落 湿性草地 植物高 80cm 被植率 100%

10×10mの広範囲

カリマタガヤ 5・5 オオイヌノハナヒゲ 4・4 カモノハシ 2・3
ミカワシンジュガヤ +・3 スイラン +・3 サギソウ +・3 チガヤ +・3
ミズトンボ + ハラヌメリ +・2 ゴマクサ +・2 コバナノワレモコウ 1・2
イヌノハナヒゲ +・4 サワヒヨドリ +・3 シカクイ +・2 アマノホシクサ +
ミミカキグサ + ホザキノミミカキグサ + クジュウトダシバ + カワラスガナ +
※G地区のサギソウは、2013年には僅かの範囲にしかなかったが、ほぼ全面に広がっている。
アマノホシクサが1個体残っている。

J-⑬ イヌシカクイ・オスズネジバナ群落 半湿性草地 植生高 50cm 被植率 70%

カモノハシ 3・3 イヌシカクイ 3・4 オスズネジバナ +・2
シロイヌノヒゲ・イトイヌノヒゲ 2・3 ツボスミレ +・2 ヒメオトギリ +

Ⅲ 高鍋湿原の植物の構成

Ⅲ-1. 確認された植物

1) 確認された植物数

確認された種数を表 1 に示した。前回（2013 年）には、447 種であったが、今回（2024 年）の調査では、440 種と極僅か 7 種減少した。減少したのは、東部湿原でガマ、チガヤ類が繁茂したためと思われる。一方、西部湿原では管理作業等により、帰化種が減少し自生種が増加している。また、近年 DNA 解析やササ等の調査研究で新規種も多く確認された。自生植物は 396 種から 389 種に僅か減少していた。

前回と今回で確認された 514 種の内訳を図 1 に示した。今回の確認種 440 種では、継続種が最も多く 369 種（84%）、新規種 71 種（16%）であり、一方今回の未確認種は 78 種であり、この 11 年間での変化が見られた。

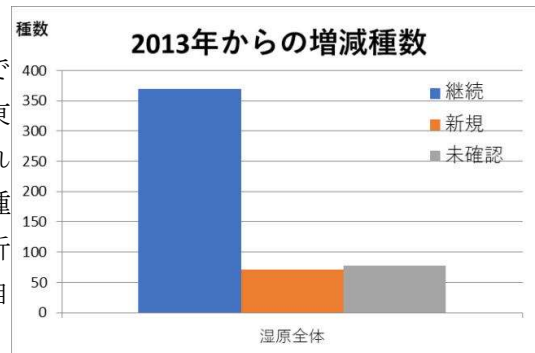


図 1 確認種の内訳

表1 確認された種数（2013年、2024年の比較）									
	2013年			2024年			2013年からの増減		
	東部湿原	西部湿原	全体	東部湿原	西部湿原	全体	東部湿原	西部湿原	全体
シダ植物	29	25	42	32	31	42	3	6	0
木本	81	43	92	65	90	98	▲ 16	47	6
草本	168	126	262	168	188	249	0	62	▲ 13
自生種計	278	194	396	265	309	389	▲ 13	115	▲ 7
帰化種	12	25	38	33	9	34	21	▲ 16	▲ 4
植栽種	7	6	13	13	7	17	6	1	4
合計	297	225	447	311	325	440	14	100	▲ 7

※全体数は、西部・東部湿原で重複したものは省いているので正味の数となっている。

これらの種の生育地特性でみると、自生種は、森林性が 151 種であった。また、高鍋湿原の多様性を評価する本来の湿地、草地性のものは 118 種であった。

2) 高鍋湿原の植物種リスト

表 2 に前回（2013 年）と今回（2024 年）に出現した種リストを示した。今回の配列は APGⅢ体系で、平凡社図鑑に準拠した。

内容は、No、科名、和名、学名、2020 年版宮崎県 RD カテゴリーと国（環境省）カテゴリー、前回及び今回の確認結果を湿原全体（◎東西両方、○片方で確認）と東・西部湿原有無（●）で表記している。

表 2 高鍋湿原の植物リスト				◎両方、○片方確認								
No.	科 名	和 名	学 名	カテゴリー	2013				2024			
		■帰化 ▲栽培逸出 ★雑種			県	国	計	東	西	計	東	西
1	マツ	アイマツ★	Pinus x densi-thunbergii)	-	-	○	●	○	●			
2	ヒノキ	ヒノキ▲	Chamaecyparis obtusa (Siebold et Zucc.) Endl.	-	-	○	●	○	●			
3	ヒノキ	スギ▲	Cryptomeria japonica (L. f.) D. Don	-	-	○	●	○	●			
4	マツバサ	サネカズラ	Kadsura japonica (L.) Dunal	-	-	○	●	◎	●	●		
5	センリョウ	センリョウ	Sarcandra glabra (Thunb.) Nakai	-	-			◎	●	●		
6	ドクダミ	ドクダミ	Houttuynia cordata Thunb.	-	-	○	●	○	●			
7	ウマノスズクサ	オオバウマノスズクサ	Aristolochia kaempferi Willd.	-	-	○	●	○	●			
8	ウマノスズクサ	オナガカンアオイ▲	Asarum minamitanianum Hatus.	CR-g	CR	○	●					
9	ウマノスズクサ	キンチャクアオイ▲	Asarum hexalobum F. Maek. var. perfectum F. Maek.	NT-g	VU	○	●					
10	ウマノスズクサ	マルミカンアオイ▲	Asarum subglobosum F. Maek. ex Hatus. et Yamahata	NT-g	EN	○	●	○	●			
11	クスノキ	ヤブニツケイ	Cinnamomum tenuifolium (Makino) Sugim. ex H. Hara	-	-			○	●			
12	クスノキ	カゴノキ	Litsea coreana H. Lévl.	-	-	○	●	○	●			
13	クスノキ	アオモジ	Litsea cubeba (Lour.) Pers.	-	-	○	●	◎	●	◎		
14	クスノキ	タブノキ	Machilus thunbergii Siebold et Zucc.	-	-	○	●	◎	●	◎		
15	クスノキ	シロダモ	Neolitsea sericea (Blume) Koidz.	-	-	◎	●	◎	●	◎		
16	クスノキ	イヌガシ	Neolitsea aciculata (Blume) Koidz.	-	-	◎	●	◎	●	◎		
17	サトイモ	ナンゴクウラシマソウ	Arisaema thunbergii Blume subsp. thunbergii	-	-	◎	●	◎	●	◎		
18	サトイモ	ムサシアブミ	Arisaema ringens (Thunb.) Schott	-	-	◎	●	◎	●	◎		
19	サトイモ	ヒメテンナンショウ	Arisaema sazensoo (Buerger ex Blume) Makino	NT-g	-	○	●	◎	●	◎		
20	キンコウカ	ソクシンラン	Aletris spicata (Thunb.) Franch.	-	-	◎	●	◎	●	◎		
21	ヤマノイモ	ニガカシュウ	Dioscorea bulbifera L.	-	-			○	●			
22	ヤマノイモ	ヤマノイモ	Dioscorea japonica Thunb.	-	-	○	●	◎	●	◎		
23	ヤマノイモ	ツクシタチドコロ	Dioscorea asclepiadea Prain et Burkill	VU-g	EN	◎	●	◎	●	◎		
24	ヤマノイモ	カエデドコロ	Dioscorea quinquelobata Thunb.	-	-	○	●					
25	シュロソウ	ツクシショウジョウバカマ	Helonias breviscapa (Maxim.) N. Tanaka	-	-	○	●	○	●			
26	サルトリイバラ	タチシオデ	Smilax nipponica Miq.	-	-	○	●	○	●			
27	サルトリイバラ	サルトリイバラ	Smilax china L.	-	-	◎	●	◎	●	◎		
28	ユリ	コオニユリ	Lilium leichtlinii Hook. f. pseudotigrinum (Carrière) H. Hara et Kitam.	-	-	○	●	○	●			
29	ユリ	オニユリ▲	Lilium lancifolium Thunb.	-	-			○	●			
30	ユリ	シンテツポウユリ■	Lilium x formolongo Hort.	-	-	○	●	○	●			
31	ユリ	アマナ	Amana edulis (Miq.) Honda	-	-	○	●	○	●			
32	ラン	カキラン	Epipactis thunbergii A. Gray	NT-g	-	○	●	◎	●	◎		
33	ラン	ハルザキヤツシロラン	Gastrodia nipponica (Honda) Tuyama	VU-r	VU	○	●					
34	ラン	ミズトンボ	Habenaria sagittifera Rchb. f.	EN-r	VU	○	●	◎	●	◎		
35	ラン	コ克蘭	Liparis nervosa (Thunb.) Lindl.	-	-	○	●	◎	●	◎		
36	ラン	ニラバラン	Microtis unifolia (G. Forst.) Rchb. f.	NT-r	-	○	◎	◎	●	◎		
37	ラン	オスズサギソウ(仮称)	Pecteilis radiata (Thunb.) Raf.	EN-g	NT	○	●	◎	●	◎		
38	ラン	トンボソウ	Platanthera ussuriensis (Regel et Maack) Maxim.	NT-r	-			○	●			
39	ラン	ヤマトキシソウ	Pogonia minor (Makino) Makino	VU-g	-	○	●					
40	ラン	ネジバナ (白花もあり)	Spiranthes sinensis (Pers.) Ames var. amoena (M. Bieb.) H. Hara	-	-	◎	●	◎	●	◎		
41	ラン	オスズネジバナ(白花もあり)	Spiranthes minamitaniana Suetsugu	-	-			○	●			
42	キンバイザサ	キンバイザサ	Curculigo orchioides Gaertn.	NT-g	-			○	●			
43	キンバイザサ	コキンバイザサ	Hypoxis aurea Lour.	VU-g	-	○	●	○	●			
44	アヤメ	チリアヤメ▲	Herbertia lahue (Molina) Goldblatt	-	-	○	●	○	●			
45	アヤメ	キショウブ▲	Iris pseudacorus L.	-	-	○	●					
46	アヤメ	ニワゼキショウ■	Sisyrinchium rosulatum E. P. Bicknell	-	-	○	●	○	●			
47	アヤメ	オオニワゼキショウ■	Sisyrinchium sp.	-	-	○	●	○	●			
48	アヤメ	セッカニワゼキショウ■	Sisyrinchium sp.	-	-			○	●			
49	ススキノキ	ノカンゾウ	Hemerocallis fulva L. var. disticha (Donn ex Ker Gawl.) M. Hotta	NT-g	-	○	●	○	●			
50	ヒガンバナ	キツネノカミソリ▲	Lycoris sanguinea Maxim.	NT-g	-	○	●	○	●			
51	クサスギカズラ	ツルボ	Barnardia japonica (Thunb.) Schult. et Schult. f.	-	-	○	●	○	●			
52	クサスギカズラ	コバギボウシ	Hosta sieboldii (Paxton) J. W. Ingram var. sieboldii f. spathulata (Miq.) W. G. Schmid	NT-g	-	○	●	○	●			
53	クサスギカズラ	ミズギボウシ	Hosta longissima Honda ex F. Maek.	VU-g	-	○	●	○	●			
54	ユリ	ミズコバギボウシ★	Hosta X	-	-	○	●					
55	クサスギカズラ	ヒメヤブラン	Liriope minor (Maxim.) Makino	-	-	◎	●	◎	●	◎		
56	クサスギカズラ	ミヤマナルコユリ	Polygonatum lasianthum Maxim.	CR-g	-	○	●	○	●			
57	クサスギカズラ	ナルコユリ	Polygonatum falcatum A. Gray	-	-	◎	●	◎	●	◎		
58	ツユクサ	ツユクサ	Commelina communis L.	-	-	◎	●	◎	●	◎		
59	ツユクサ	イボクサ	Murdannia keisak (Hassk.) Hand. -Mazz.	-	-	○	●	○	●			
60	ツユクサ	イボクサ	Murdannia loriformis (Hassk.) R. Rao et Kammathy	-	-	○	●	○	●			
61	ツユクサ	ヤブミョウガ	Polia japonica Thunb.	-	-	○	●	○	●			
62	ショウガ	ハナミョウガ	Alpinia japonica (Thunb.) Miq.	-	-			○	●			
63	ガマ	コガマ	Typha orientalis C. Presl	-	-	○	●	○	●			

No.	科 名	和 名 ■帰化 ▲栽培逸出 ★雑種	学 名	カテゴリー		2013				2024			
				県	国	計	東	西	計	東	西		
64	ガマ	ヒメガマ	Typha domingensis Pers.	-	-	○	●		○	●			
65	ホシクサ	イトイヌノヒゲ	Eriocaulon decemflorum Maxim.	NT-g	-	○		●	○			○	●
66	ホシクサ	ホシクサ	Eriocaulon cinereum R.Br.	NT-g	-	○		●					
67	ホシクサ	クロホシクサ	Eriocaulon parvum Koern.	VU-g	VU	◎	●	●	◎	●	●		
68	ホシクサ	アマノホシクサ	Eriocaulon amanoanum T.Koyama	CR-g	CR	○		●	○			○	●
69	ホシクサ	オオホシクサ	Eriocaulon buergerianum Koern.	EN-g	-	○	●		◎	●	●		
70	ホシクサ	シロイヌノヒゲ	Eriocaulon miquelianum Koern.	NT-g	-	◎	●	●	◎	●	●		
71	ホシクサ	ツクシクロイヌノヒゲ	Eriocaulon kiusianum Maxim.	VU-g	VU	◎	●	●	○	●			
72	ホシクサ	ヒロハノイヌノヒゲ	Eriocaulon alpestre Hook.f. et Thomson ex Koern.	NT-g	-	○		●	○				
73	ホシクサ	ニッポンイヌノヒゲ	Eriocaulon taquetii Lecomte	VU-g	-	○	●		◎	●	●		
74	ホシクサ	ホウキボシイヌノヒゲ	Eriocaulon sp.	CR-r	-	○		●	○			○	●
75	ホシクサ	オオホシクサ×ツクシクロイヌホヒゲ	Eriocaulon x	-	-	○	●						
76	ホシクサ	ニッポンイヌノヒゲ×ツクシクロイヌノヒゲ	Eriocaulon x	-	-	○	●						
77	ホシクサ	ヒロハイヌノヒゲ×ツクシクロイヌノヒゲ	Eriocaulon x	-	-	○	●						
78	ホシクサ	ヒロハイヌノヒゲ×ニッポンイヌノヒゲ	Eriocaulon x	-	-	○	●						
79	ホシクサ	オオホシクサ×ヒロハイヌノヒゲ	Eriocaulon x	-	-	○	●						
80	イグサ	タカナベ	Juncus sp.	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
81	イグサ	イグサ	Juncus decipiens (Buchenau) Nakai	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
82	イグサ	タチコウガイゼキショウ	Juncus krameri Franch. et Sav.	NT-g	-	○		●	◎	●	●		
83	イグサ	アオコウガイゼキショウ	Juncus papillosus Franch. et Sav.	NT-g	-	○		●	○			○	●
84	イグサ	コウガイゼキショウ	Juncus prismatocarpus R.Br. subsp. leschenaultii (J.Gay ex Laharpe) Kirschner	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
85	カヤツリグサ	イトテンツキ	Bulbostylis densa (Wall.) Hand.-Mazz. var. capitata (Miq.) Ohwi	VU-g	NT	○		●					
86	カヤツリグサ	ハリガネスゲ	Carex capillacea Boott	NT-r	-				○			○	●
87	カヤツリグサ	ヤチカワズスゲ	Carex omiana Franch. et Sav. var. omiana	VU-g	-	○		●	○				
88	カヤツリグサ	ナキリスゲ	Carex lenta D.Don var. lenta	-	-	○		●	○			○	●
89	カヤツリグサ	アゼナルコスゲ	Carex dimorpholepis Steud.	-	-	○	●						
90	カヤツリグサ	ゴウソ	Carex maximowiczii Miq.	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
91	カヤツリグサ	タチスゲ	Carex maculata Boott	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
92	カヤツリグサ	ジュズスゲ	Carex ischnostachya Steud.	-	-	○	●						
93	カヤツリグサ	カワラスガナ	Cyperus sanguinolentus Vahl	-	-	○	○			◎		○	●
94	カヤツリグサ	イガガヤツリ	Cyperus polystachyos Rottb.	-	-	○	●						
95	カヤツリグサ	アゼガヤツリ	Cyperus flavidus Retz.	-	-	○	●		○	●			
96	カヤツリグサ	イヌクグ	Cyperus cyperoides (L.) Kuntze	-	-	○	●						
97	カヤツリグサ	コアゼガヤツリ	Cyperus haspan L. var. tuberiferus T.Koyama	-	-	○		●					
98	カヤツリグサ	ツルナシコアゼガヤツリ	Cyperus haspan L. var. microhaspan Makino	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
99	カヤツリグサ	オニガヤツリ	Cyperus pilosus Vahl	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
100	カヤツリグサ	カガシラ	Diplacrum caricinum R.Br.	EN-r	VU	○		●	○			○	●
101	カヤツリグサ	クログワイ	Eleocharis kuroguwai Ohwi	NT-g	-	○		●					
102	カヤツリグサ	イヌシカクイ	Eleocharis wichurae Boeck. f. teres (H.Hara) Ohwi	-	-					○		○	●
103	カヤツリグサ	シカクイ	Eleocharis wichurae Boeck.	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
104	カヤツリグサ	マシカクイ	Eleocharis tetraquetra Nees	NT-g	-	○		●	◎	●	●		
105	カヤツリグサ	ハリイ	Eleocharis congesta D.Don var. japonica (Miq.) T.Koyama	-	-	○		●					
106	カヤツリグサ	オオハリイ	Eleocharis congesta D.Don var. congesta	-	-					○		○	●
107	カヤツリグサ	ヒデリコ	Fimbristylis littoralis Gaudich.	-	-	○	●		○	●			
108	カヤツリグサ	クロテンツキ	Fimbristylis diphyllodes Makino	-	-	○	●		○	●			
109	カヤツリグサ	ノテンツキ	Fimbristylis complanata (Retz.) Link f. exaltata T.Koyama	CR-r	-	○		●	○	●		○	●
110	カヤツリグサ	ヤマ	Fimbristylis subbispicata Nees et Meyen	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
111	カヤツリグサ	テンツキ	Fimbristylis dichotoma (L.) Vahl var. tentsuki T.Koyama	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
112	カヤツリグサ	クグテンツキ	Fimbristylis dichotoma (L.) Vahl var. diphylla (Retz.) T.Koyama	-	-	◎	●	●	○	●			
113	カヤツリグサ	ヒメ(ヒラ)テンツキ	Fimbristylis autumnalis (L.) Roem. et Schult.	NT-g	-	○		●	○			○	●
114	カヤツリグサ	クロタマガヤツリ	Fuirena ciliaris (L.) Roxb.	VU-g	-	○	○		○				
115	カヤツリグサ	イヌノハナヒゲ	Rhynchospora rugosa (Vahl) Gale	NT-r	-	◎	●	●	◎	●	●		
116	カヤツリグサ	オオイヌノハナヒゲ	Rhynchospora fauriei Franch.	-	-					◎	●	●	
117	カヤツリグサ	コイヌノハナヒゲ	Rhynchospora fujiana Makino	NT-r	-	◎	●	●	○			○	●
118	カヤツリグサ	イトイヌノハナヒゲ	Rhynchospora faberi C.B.Clarke	VU-r	-	○		●	○				○
119	カヤツリグサ	カンガレイ	Schoenoplectiella triangulatus (Roxb.) D.Jung et H.K.Chot.	-	-	◎	●	●	◎	●	●		
120	カヤツリグサ	フトイ▲	Schoenoplectus tabernaemontani (C.C.Gmel.) Palla	CR-r	-	○	○		○				
121	カヤツリグサ	アブラガヤ	Scirpus sp.	-	-	○		●	○			○	●
122	カヤツリグサ	ツクシアブラガヤ	Scirpus rosthornii Diels var. kiushuensis (Ohwi) Ohwi	NT-g	EN	◎	●	●	◎	●	●		
123	カヤツリグサ	シデアブラガヤ	Scirpus wichurae Boeck. f. cylindricus (Makino) Nemoto	-	-	○		●	○			○	●
124	カヤツリグサ	コシンジュガヤ	Scleria parvula Steud.	VU-r	-					○			○
125	カヤツリグサ	ミカワシンジュガヤ	Scleria mikawana Makino	VU-r	VU	○	●		◎	●	●		
126	カヤツリグサ	ケシンジュガヤ	Scleria rugosa R.Br.	VU-g	-	○		●	○			○	●
127	カヤツリグサ	マネキシシンジュガヤ	Scleria rugosa R.Br. var. onoei (Franch. et Sav.) Yonek.	VU-g	-	○	○		○				
128	イネ	ホウライチク	Bambusa multiplex (Lour.) Raeusch. ex Schult. et Schult.f.	-	-	○		○	○			○	○

No.	科 名	和 名 ■帰化 ▲栽培逸出 ★雑種	学 名	カテゴリー 県 国	2013			2024		
					計	東	西	計	東	西
129	イネ	マダケ	Phyllostachys reticulata (Rupr.) K. Koch	- -	◎	●	●	◎	●	●
130	イネ	ハチク▲	Phyllostachys nigra (Lodd. ex Loud.) Munro var. henonis (Bean ex Mitford) Stapf ex Rendle	- -				○	●	●
131	イネ	メダケ	Pleioblastus simonii (Carrière) Nakai	- -	○		●	○		●
132	イネ	リュウキュウチク▲	Pleioblastus linearis (Hack.) Nakai	- -				○	●	●
133	イネ	ネザサ	Pleioblastus argenteostriatus (Regel) Nakai f. glaber (Makino) Murata	- -	◎	●	●	◎	●	●
134	イネ	イブキザサ	Sasa tsuhoiana	CR-r -				○		●
135	イネ	イヌトクガワザサ	Sasa scytophylla	VU-r -				○		●
136	イネ	ウツクシザサ	Sasa pulcherrima	CR-r -				○		●
137	イネ	アリマシノ	Sasaella kogasensis (Nakai) Nakai ex Koidz. var. yoshinoi (Koidz.) Sad. Suzuki	CR-r -				○		●
138	イネ	ウンゼンザサ	Sasa gracillima Nakai	CR-r -				○		●
139	イネ	オニクジョウシノ	Sasaella caudiceps (Koidz.) Koidz.	CR-r -				○		●
140	イネ	ケナシカシダザサ	Sasa oshidensis Makino et Uchida subsp. glabra (Koidz.) Sad. Suzuki	CR-r -				○		●
141	イネ	ヒロウザサ	Pleioblastus nagashima (Mitford) Nakai	NT-g -				○		●
142	イネ	ヌカボ	Agrostis clavata Trin. var. nukabo Ohwi	- -	◎	●	●	◎	●	●
143	イネ	ヒメコバンソウ■	Briza minor L.	- -	○	●	●	○	●	●
144	イネ	アオカモジグサ	Elymus racemifer (Steud.) Tzvelev	- -	○	●		○	●	
145	イネ	カモジグサ	Elymus tsukushiensis Honda var. transiens (Hack.) Osada	- -	○	●		○	●	
146	イネ	トボシガラ	Festuca parvigluma Steud. var. parvigluma	- -	○	●				
147	イネ	ネズミムギ■	Lolium multiflorum Lam.	- -	○	●		○	●	
148	イネ	クサヨシ	Phalaris arundinacea L.	- -	○	●		○	●	
149	イネ	カニツリグサ	Trisetum bifidum (Thunb.) Ohwi	- -	◎	●	●			
150	イネ	オヒシバ	Eleusine indica (L.) Gaertn.	- -				○	●	
151	イネ	イトスズメガヤ	Eragrostis brownii (Kunth) Nees	NT-g -	◎	●	●	○		●
152	イネ	ツルヨシ	Phragmites japonicus Steud.	- -	○	●	●	◎	●	●
153	イネ	ヒナザサ	Coelachne japonica Hack.	CR-r NT	○	●				
154	イネ	チゴザサ	Isachne globosa (Thunb.) Kuntze var. globosa	- -	◎	●	●	◎	●	●
155	イネ	ハイチゴザサ	Isachne nipponensis Ohwi	- -	○		●	○		●
156	イネ	ササクサ	Lophatherum gracile Brongn.	- -	◎	●	●	◎	●	●
157	イネ	メリケンカルカヤ■	Andropogon virginicus L.	- -	◎	●	●	◎	●	●
158	イネ	コブナグサ	Arthraxon hispidus (Thunb.) Makino	- -	○	●	●	◎	●	●
159	イネ	トダシバ (細分された)	Arundinella hirta (Thunb.) Tanaka	- -	◎	●	●			
160	イネ	セイタカトダシバ	Arundinella hirta (Thunb.) Tanaka	- -				◎	●	●
161	イネ	クジュウトダシバ	Arundinella sp.	- -				◎	●	●
162	イネ	ツクシトダシバ	Arundinella anomala Steud.	- -				◎	●	●
163	イネ	タカナベトダシバ (仮称)	Arundinella sp.	- -				○	●	
164	イネ	ナヨトダシバ (仮称)	Arundinella sp.	- -				○		●
165	イネ	メヒシバ	Digitaria ciliaris (Retz.) Koeler	- -	○	●	●	◎	●	●
166	イネ	カリマタガヤ	Dimeria ornithopoda Trin. var. tenera (Trin.) Hack.	- -	○		●	○		●
167	イネ	コバノウシノシツペイ	Hemarthria compressa (L. f.) R. Br.	- -				○	●	
168	イネ	チガヤ	Imperata cylindrica (L.) Raeusch. var. koenigii (Retz.) Pilg.	- -	◎	●	●	◎	●	●
169	イネ	カモノハシ	Ischaemum aristatum L. var. crassipes (Steud.) Yonek.	- -	◎	●	●	◎	●	●
170	イネ	ササガヤ	Leptatherum japonicum Franch. Et Sav. var. japonicum	- -				○		●
171	イネ	オギ	Miscanthus sacchariflorus (Maxim.) Benth.	- -	○		●	○		●
172	イネ	ススキ	Miscanthus sinensis Andersson	- -	◎	●	●	◎	●	●
173	イネ	チヂミザサ	Oplismenus undulatifolius (Ard.) Roem. et Schult. var. undulatifolius	- -	◎	●	●	◎	●	●
174	イネ	ヌカキビ	Panicum bisulcatum Thunb.	- -				◎		●
175	イネ	タチスズメノヒエ■	Paspalum urvillei Steud.	- -	◎	●	●	◎	●	●
176	イネ	スズメノヒエ	Paspalum thunbergii Kunth ex Steud.	- -				○	●	
177	イネ	スズメノコビエ	Paspalum scrobiculatum L. var. orbiculare (G. Forst.) Hack.	- -	○		●			
178	イネ	アメリカスズメノヒエ■	Paspalum notatum Flügge	- -	○	●		○	●	
179	イネ	ハイヌメリグサ	Sacciolepis spicata (L.) Honda ex Masam. var. spicata	- -	◎	●	●	◎	●	●
180	イネ	ヌメリグサ	Sacciolepis spicata (L.) Honda ex Masam. var. oryzetorum (Makino) Yonek.	- -	◎	●	●			
181	イネ	ハラヌメリ	Sacciolepis myosuroides (R. Br.) Chase ex E. G. et A. Camus	CR-r CR	◎	●	●	◎	●	●
182	イネ	エノコログサ	Setaria viridis (L.) P. Beauv. subsp. minor (Thunb.) T. Koyama	- -				○	●	
183	イネ	ムラサキエノコロ	Setaria viridis (L.) P. Beauv. f. misera Honda	- -	○	●				
184	アケビ	ミツバアケビ	Akebia trifoliata (Thunb.) Koidz.	- -	○		●	◎	●	●
185	アケビ	ムベ	Stauntonia hexaphylla (Thunb.) Decne.	- -	○	●		◎	●	●
186	ツヅラフジ	アオツヅラフジ	Cocculus orbiculatus auct. non (L.) DC.	- -	○		●	◎	●	●
187	メギ	ヘビノボラズ	Berberis sieboldii Miq.	EN-r -	○		●	○		●
188	メギ	ナンテン	Nandina domestica Thunb.	- -				○		●
189	キンボウゲ	ボタンツル	Clematis apiifolia DC. var. apiifolia	- -				○		●
190	キンボウゲ	カザグルマ	Clematis patens C. Morren et Decne.	CR-r NT	○	●		◎	●	●
191	キンボウゲ	センニンソウ	Clematis terniflora DC.	- -	○	●		○	●	
192	キンボウゲ	ケキツネノボタン	Ranunculus cantoniensis DC.	- -	○	●		◎	●	●
193	キンボウゲ	アキカラマツ	Thalictrum minus L. var. hypoleucum (Siebold et Zucc.) Miq.	- -	○	●				

No.	科 名	和 名 ■帰化 ▲栽培逸出 ★雑種	学 名	カテゴリー		2013			2024		
				県	国	計	東	西	計	東	西
194	アワブキ	ミヤマハハソ	Meliosma tenuis Maxim.	-	-	○	●				
195	ユズリハ	ヒメユズリハ	Daphniphyllum teijsmannii Zoll. ex Kurz	-	-	◎	●	◎	●	●	
196	ベンケイソウ	コモチマンネングサ	Sedum bulbiferum Makino	-	-	○	●				
197	アリノトウグサ	アリノトウグサ	Gonocarpus micranthus Thunb.	-	-	◎	●	◎	●	●	
198	ブドウ	ノブドウ	Ampelopsis glandulosa (Wall.) Momiy. var. heterophylla (Thunb.) Momiy.	-	-	◎	●	◎	●	●	
199	ブドウ	ツタ	Parthenocissus tricuspidata (Siebold et Zucc.) Planch.	-	-			○		●	
200	ブドウ	エビヅル	Vitis ficifolia Bunge var. Ficifolia	-	-	○	●		○	●	
201	マメ	ネムノキ	Albizia julibrissin Durazz.	-	-	◎	●	◎	●	●	
202	マメ	カワラケツメイ	Chamaecrista nomame (Siebold) H. Ohashi	-	-	○	●				
203	マメ	ヤブマメ	Amphicarpaea edgeworthii Benth.	-	-	○	●				
204	マメ	ツルマメ	Glycine max (L.) Merr. subsp. soja (Siebold et Zucc.) H. Ohashi	-	-	○	●	○	●		
205	マメ	コマツナギ	Indigofera bungeana Walf.	-	-	○		○		●	
206	マメ	ヤハズソウ	Kummerowia striata (Thunb.) Schindl.	-	-	○		◎	●	◎	
207	マメ	ツクシハギ	Lespedeza homoloba Nakai	-	-	◎	●	◎	●	◎	
208	マメ	ヤマハギ	Lespedeza bicolor Turcz. var. bicolor	-	-	○	●				
209	マメ	ネコハギ	Lespedeza pilosa (Thunb.) Siebold et Zucc. var. pilosa	-	-	○	●	◎	●	◎	
210	マメ	メドハギ	Lespedeza cuneata (Dum. Cours.) G. Don var. cuneata	-	-	◎	●	◎	●	◎	
211	マメ	ハイメドハギ	Lespedeza cuneata (Dum. Cours.) G. Don var. serpens (Nakai) Ohwi ex Shimabuku	-	-	○	●	○		●	
212	マメ	ミヤコグサ	Lotus corniculatus L. subsp. japonicus (Regel) .Ohashi	-	-	○	●	○	●		
213	マメ	クズ	Pueraria lobata (Willd.) Ohwi var. lobata	-	-	◎	●	◎	●	◎	
214	マメ	シロツメクサ■	Trifolium repens L.	-	-	○	●	○	●		
215	マメ	コメツブツメクサ■	Trifolium dubium Sibth.	-	-	○	●	○	●		
216	マメ	ヤハズエンドウ	Vicia sativa L. subsp. nigra (L.) Ehrh.	-	-	○	●	○	●		
217	マメ	ヤマフジ	Wisteria brachybotrys Siebold et Zucc.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
218	マメ	ナツフジ	Wisteria japonica Siebold et Zucc.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
219	ヒメハギ	ヒメハギ	Polygala japonica Houtt.	-	-	○	●	○	●		
220	ヒメハギ	ヒナノカンザシ	Salomonia ciliata (L.) DC.	NT-r	-	◎	●	◎	●	◎	
221	グミ	アキグミ	Elaeagnus umbellata Thunb. var. umbellata	-	-	○	●	○		●	
222	グミ	ナワシログミ	Elaeagnus pungens Thunb.	-	-	○	●	○	●		
223	グミ	ツルグミ	Elaeagnus glabra Thunb.	-	-			○	●		
224	クロウメモドキ	イソノキ	Frangula crenata (Siebold et Zucc.) Miq. var. crenata	-	-	○	●	○		●	
225	クロウメモドキ	ネコノチチ	Rhamnella franguloides (Maxim.) Weberb.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
226	クロウメモドキ	クロウメモドキ	Rhamnus japonica Maxim. var. decipiens Maxim.	-	-	○	●	○		●	
227	ニレ	ケヤキ	Zelkova serrata (Thunb.) Makino	-	-	○	●				
228	アサ	エノキ	Celtis sinensis Pers.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
229	クワ	イヌビワ	Ficus erecta Thunb. var. erecta	-	-	◎	●	◎	●	◎	
230	クワ	クワノキ▲	Morus australis, Poir. / Morus alba, L.	-	-	○	●	○	●		
231	クワ	ヤマグワ	Morus australis Poir.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
232	バラ	ヒメキンミズヒキ	Agrimonia nipponica Koidz.	-	-	○	●	◎	●	◎	
233	バラ	キンミズヒキ	Agrimonia pilosa Ledeb. var. viscidula (Bunge) Kom.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
234	バラ	アイキンミズヒキ★	Agrimonia x	-	-	○	●				
235	バラ	ヘビイチゴ	Potentilla hebiichigo Yonek. et H. Ohashi	-	-	◎	●	◎	●	◎	
236	バラ	ミツバツチグリ	Potentilla freyniana Bornm.	-	-	○	●	◎	●	◎	
237	バラ	ノイバラ	Rosa multiflora Thunb. var. multiflora	-	-	◎	●	◎	●	◎	
238	バラ	ヤブイバラ	Rosa onoei Makino var. onoei	-	-	○	●	○	●		
239	バラ	ミヤコイバラ	Rosa paniculigera (Koidz.) Makino ex Momiy.	-	-	○	●				
240	バラ	テリハノイバラ	Rosa luciae Rochebr. et Franch. ex Crép.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
241	バラ	フユイチゴ	Rubus buergeri Miq.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
242	バラ	モミジイチゴ	Rubus palmatus Thunb.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
243	バラ	クマイチゴ	Rubus crataegifolius Bunge	-	-	◎	●	◎	●	◎	
244	バラ	クサイチゴ	Rubus hirsutus Thunb.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
245	バラ	ナワシロイチゴ	Rubus parvifolius L.	-	-	○	●				
246	バラ	コバナノワレモコウ	Sanguisorba tenuifolia Fisch. ex Link var. parviflora Maxim.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
247	バラ	サクラ(ソメイヨシノ等)▲	erasus × yedoensis 'Somei-yoshino'	-	-	◎	●	◎	●	◎	
248	バラ	ヤマザクラ▲	Cerasus jamasakura (Siebold ex Koidz.) H. Ohba	-	-	○	●	○	●		
249	バラ	ヤマブキ▲	Kerria japonica (L.) DC.	-	-	○	●	○	●		
250	バラ	タカナベカイドウ▲	Malus sp.	EW-r	-	○	●	○	●		
251	バラ	ピラカンサ▲	Pyracantha coccinea	-	-	○	●	○	●		
252	バラ	シャリンバイ	Rhaphiolepis indica (L.) Lindl. var. umbellata (Thunb.) H. Ohashi	-	-	○	●	○	●		
253	ブナ	クリ▲	Castanea crenata Siebold et Zucc.	-	-	◎	●	◎	●	◎	
254	ブナ	ツブラジイ	Castanopsis cuspidata (Thunb.) Schottky	-	-	◎	●	◎	●	◎	
255	ブナ	マテバシイ	Lithocarpus edulis (Makino) Nakai	-	-	○	●	○	●		
256	ブナ	シリブカガシ	Lithocarpus glaber (Thunb.) Nakai	-	-	◎	●	◎	●	◎	
257	ブナ	クヌギ	Quercus acutissima Carruth.	-	-	○	●	◎	●	◎	
258	ブナ	コナラ	Quercus serrata Murray subsp. Serrata var. serrata	-	-	○	●	○	●		

No.	科 名	和 名 ■帰化 ▲栽培逸出 ★雑種	学 名	カテゴリー		2013			2024		
				県	国	計	東	西	計	東	西
259	ブナ	アラカシ	Quercus glauca Thunb.	-	-	◎	●	◎	●	●	●
260	カバノキ	サクラバハノキ	Alnus trabeculosa Hand.-Mazz.	VU-r	NT	○	●	○		●	
261	ウリ	アマチャヅル	Gynostemma pentaphyllum (Thunb.) Makino	-	-	○	●				
262	ウリ	カラスウリ	Trichosanthes cucumeroides (Ser.) Maxim. ex Franch. et Sav.	-	-	○		◎	●	●	●
263	ウリ	スズメウリ	Zehneria japonica (Thunb.) H.Y.Liu	-	-			○		●	
264	ニシキギ	ツルウメモドキ	Celastrus orbiculatus Thunb. var. orbiculatus	-	-	◎	●	◎	●	●	●
265	ニシキギ	マユミ	Euonymus sieboldianus Blume var. sieboldianus	-	-	○		●	○	●	●
266	ニシキギ	ツリバナ	Euonymus oxyphyllus Miq.	-	-	○	●	◎	●	◎	●
267	ニシキギ	ウメバチソウ	Parnassia palustris L. var. palustris	NT-g	-	◎	●	○		●	
268	カタバミ	カタバミ	Oxalis corniculata L.	-	-	○	●	○	●		
269	カタバミ	オッタチカタバミ■	Oxalis dillenii	-	-	◎	●	◎	●	●	●
270	トウダイグサ	ハイニシキソウ■	hamaesyce prostrata	-	-			○	●		
271	トウダイグサ	コニシキソウ■	Euphorbia maculata L.	-	-			○	●		
272	トウダイグサ	アカメガシワ	Mallotus japonicus (L.f.) Müll.Arg.	-	-	◎	●	◎	●	●	●
273	トウダイグサ	ナンキンハゼ▲	Triadica sebifera (L.) Small	-	-	◎	●	◎	●	●	●
274	コミカンソウ	ヒメミカンソウ	Phyllanthus ussuriensis Rupr. et Maxim.	-	-	○	●				
275	コミカンソウ	コミカンソウ■	Phyllanthus lepidocarpus Siebold et Zucc.	-	-	◎	●	○		●	
276	ヤナギ	オオタチヤナギ	Salix pierotii Miq.	-	-	○	●	○	●		
277	ヤナギ	シダレヤナギ▲	Salix babylonica L. er. babylonica L	-	-			○	●		
278	ヤナギ	イヌコリヤナギ	Salix integra Thunb.	-	-	◎	●	◎	●	◎	●
279	スミレ	スミレ	Viola mandshurica W.Becker var. mandshurica	-	-	○	●	○	●		
280	スミレ	フモトスミレ	Viola sieboldii Maxim.	-	-	○		○		●	
281	スミレ	ヒメミヤマスミレ	Viola boissieuana Makino var. boissieuana	-	-	○		○		●	
282	スミレ	ツボスミレ	Viola verecunda A. Gray var. verecunda	-	-	◎	●	◎	●	◎	●
283	スミレ	アギスミレ	Viola verecunda A. Gray var. semilunaris Maxim.	NT-r	-	○		○		●	
284	スミレ	ヒメアギスミレ	Viola verecunda A. Gray var. subaequiloba (Franch. et Sav.) F. Maek.	-	-	○		●			
285	スミレ	タチツボスミレ	Viola grypoceras A. Gray var. grypoceras	-	-	-	○	○		●	
286	オトギリソウ	ヒメオトギリ	Hypericum japonicum Thunb.	-	-	◎	●	◎	●	◎	●
287	オトギリソウ	コケオトギリ	Hypericum laxum (Blume) Koidz.	-	-			○		●	
288	オトギリソウ	オトギリソウ	Hypericum erectum Thunb. var. erectum	-	-	○	●	○	●		
289	フウロソウ	アメリカフウロ■	Geranium carolinianum L.	-	-	○	●	○	●		
290	ミソハギ	ミソハギ	Lythrum anceps (Koehne) Makino	VU-g	-	○	●	○	●		
291	ミソハギ	アイミソハギ★	Lythrum x	-	-			○	●		
292	ミソハギ	エゾミソハギ	Lythrum salicaria L.	-	-			○	●		
293	アカバナ	アカバナ	Epilobium pyrricholophum Franch. et Sav.	-	-	○	●	○	●		
294	アカバナ	チョウジタデ	Ludwigia epilobioides Maxim. subsp. epilobioides	-	-			○	●		
295	アカバナ	コマツヨイグサ■	Oenothera laciniata Hill	-	-	○	●	○	●		
296	ノボタン	ヒメノボタン	Osbeckia chinensis L.	NT-g	VU	◎	●	◎	●	◎	●
297	ミツバウツギ	ゴンズイ	Euscaphis japonica (Thunb.) Kanitz	-	-	◎	●	◎	●	◎	●
298	キブシ	キブシ	Stachyurus praecox Siebold et Zucc.	-	-	○		○	○	●	
299	ウルシ	ヌルデ	Rhus javanica L. var. chinensis (Mill.) T.Yamaz.	-	-	◎	●	◎	●	◎	●
300	ウルシ	ヤマウルシ	Toxicodendron trichocarpum (Miq.) Kuntze	-	-	○		○		●	
301	ウルシ	ヤマハゼ	Toxicodendron sylvestri (Siebold et Zucc.) Kuntze	-	-	◎	●	◎	●	◎	●
302	ムクロジ	イロハカエデ	Acer palmatum Thunb.	-	-	○	●	○	●		
303	ミカン	カラスザンショウ	Zanthoxylum ailanthoides Siebold et Zucc. var. ailanthoides	-	-	◎	●	◎	●	◎	●
304	ミカン	イヌザンショウ	Zanthoxylum schinifolium Siebold et Zucc. var. schinifolium	-	-	○		○		●	
305	ニガキ	ニガキ	Picrasma quassioides (D. Don) Benn.	-	-	○	●	◎	●	◎	●
306	センダン	センダン	Melia azedarach L.	-	-	◎	●	◎	●	◎	●
307	アオイ	ハマボウ▲	Hibiscus hamabo Siebold et Zucc.	NT-g	-			○	●		
308	アオイ	ノジアアオイ■	Melochia corchorifolia L.	-	-	○		●			
309	アオイ	アメリカキンゴジカ■	Sida spinosa L.	-	-	○	●	○	●		
310	アブラナ	アブラナ▲	Brassica rapa L. var. oleifera DC.	-	-	○	●	○	●		
311	アブラナ	タネツケバナ	Cardamine occulta Hornem.	-	-	○	●	○	●		
312	タデ	イタドリ	Fallopia japonica (Houtt.) Ronse Decr. var. japonica	-	-	◎	●	◎	●	◎	●
313	タデ	ミゾソバ	Persicaria thunbergii (Siebold et Zucc.) H.Gross	-	-	◎	●	◎	●	◎	●
314	タデ	アキノウナギツカミ	Persicaria sagittata var. sibirica	-	-	○	●	○	●		
315	タデ	ウナギツカミ	Persicaria sagittata (L.) H.Gross var. sibirica (Meisn.) Miyabe	-	-	○	●	○	●		
316	タデ	ヤノネグサ	Persicaria muricata (Meisn.) Nemoto	-	-	○		○	●	○	●
317	タデ	ミズヒキ	Persicaria filiformis (Thunb.) Nakai ex W.T. Lee	-	-			◎	●	◎	●
318	タデ	ヤナギタデ	Persicaria hydropiper (L.) Delarbre	-	-	○	●	◎	●	◎	●
319	タデ	ボントクタデ	Persicaria pubescens (Blume) H.Hara	-	-	○	●	○	●		
320	タデ	イヌタデ	Persicaria longiseta (Bruijn) Kitag.	-	-	○	●	◎	●	◎	●
321	タデ	スイバ	Rumex acetosa L.	-	-	○	●	◎	●	◎	●
322	タデ	ナガバギシギシ■	Rumex crispus L.	-	-	○	●				
323	モウセンゴケ	モウセンゴケ	Drosera rotundifolia L.	-	-	○		○		●	

No.	科 名	和 名 ■帰化 ▲栽培逸出 ★雑種	学 名	カテゴリー		2013			2024		
				県	国	計	東	西	計	東	西
324	ナデシコ	オランダミナグサ■	Cerastium glomeratum Thuill.	-	-	○	●	○	●		
325	ナデシコ	ノミノフスマ	Stellaria uliginosa Murray var. undulata (Thunb.) Fenzl	-	-	○	●				
326	ヒユ	ヒカゲイノコツチ	Achyranthes bidentata Blume var. japonica Miq.	-	-	○	●	◎	●	●	
327	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ■	Phytolacca americana L.	-	-	○	●				
328	ザクロソウ	クマバザクロソウ	Mollugo verticillata L.	-	-			○	●		
329	ミズキ	クマノミズキ	Cornus macrophylla Wall.	-	-			○		●	
330	ミズキ	ミズキ	Cornus controversa Hemsl. ex Prain var. controversa	-	-	○		●			
331	アジサイ	マルバウツギ	Deutzia scabra Thunb. var. scabra	-	-	○	●	◎	●	●	
332	アジサイ	ノリウツギ	Heteromalla paniculata (Siebold) H. Ohba et S. Akiyama	-	-			○		●	
333	アジサイ	ガクウツギ	Hortensia scandens (L. f.) H. Ohba et S. Akiyama	-	-	○	●	○	●		
334	アジサイ	(ツクシ)コガクウツギ	Hydrangea luteovenosa Koidz.	-	-			○		●	
335	サカキ	ハマヒサカキ	Eurya emarginata (Thunb.) Makino var. emarginata	-	-	○		○		●	
336	サカキ	ヒサカキ	Eurya japonica Thunb.	-	-	◎	●	◎	●	●	
337	カキノキ	カキノキ▲	Diospyros kaki Thunb. var. kaki	-	-	○		○		●	
338	サクラソウ	ヤブコウジ	Ardisia japonica (Thunb.) Blume var. japonica	-	-			○		●	
339	サクラソウ	マンリョウ	Ardisia crenata Sims	-	-	◎	●	◎	●	●	
340	サクラソウ	コナスビ	Lysimachia japonica Thunb. var. japonica	-	-	○		●			
341	サクラソウ	ヌマトラノオ	Lysimachia fortunei Maxim.	-	-	◎	●	◎	●	●	
342	サクラソウ	オカトラノオ	Lysimachia clethroides Duby	-	-	◎	●	○		●	
343	サクラソウ	イズセンリョウ	Maesa japonica (Thunb.) Moritzi et Zoll.	-	-			○		●	
344	ツバキ	ヤブツバキ	Camellia japonica L. var. japonica	-	-	○		◎	●	●	
345	ハイノキ	サワフタギ	Symplocos sawafutagi Nagam.	-	-	○		○		●	
346	ハイノキ	クロキ	Symplocos kuroki Nagam.	-	-	◎	●	◎	●	●	
347	ハイノキ	ミミズバイ	Symplocos glauca (Thunb.) Koidz.	-	-	◎	●	◎	●	●	
348	エゴノキ	エゴノキ	Styrax japonica Siebold et Zucc.	-	-	○		○		●	
349	ツツジ	タカナベツツジ(仮称)★	Rhododendron x	-	-			○		●	
350	ツツジ	ヤマツツジ	Rhododendron kaempferi Planch. var. kaempferi	-	-	◎	●	◎	●	●	
351	ツツジ	フジツツジ	Rhododendron tosaense Makino	-	-	○		◎	●	●	
352	ツツジ	オンツツジ	Rhododendron weyrichii Maxim. var. weyrichii	-	-	○		○		●	
353	ツツジ	ネジキ	Lyonia ovalifolia (Wall.) Drude var. elliptica (Siebold et Zucc.) Hand.-Mazz.	-	-	◎	●	◎	●	●	
354	ツツジ	アセビ	Pieris japonica (Thunb.) D. Don ex G. Don subsp. japonica	-	-	○		○		●	
355	ツツジ	シャシャンボ	Vaccinium bracteatum Thunb.	-	-	○		○		●	
356	アオキ	アオキ	Aucuba japonica Thunb. var. japonica	-	-	◎	●	◎	●	●	
357	アカネ	ヤエムグラ	Galium spurium L. var. echinospermon (Wallr.) Desp.	-	-	○	●				
358	アカネ	クチナシ	Gardenia jasminoides Ellis var. jasminoides	-	-	◎	●	◎	●	●	
359	アカネ	メリケンムグラ■	Diodia virginiana L.	-	-	◎	●	◎	●	●	
360	アカネ	サツマルリミノキ	Lasianthus japonicus Miq. f. satsumensis (Matsum.) Kitam.	-	-	○		○		●	
361	アカネ	ハシカグサ	Neanotis hirsuta (L. f.) W. H. Lewis var. hirsuta	-	-	○		●			
362	アカネ	サツマイナモリ	Ophiorrhiza japonica Blume	-	-	○		○		●	
363	アカネ	ナガエフタバムグラ	Hedyotis brachypoda (DC.) Sivar. et Biju	-	-	○		●			
364	アカネ	ヘクソカズラ	Paederia foetida L.	-	-	◎	●	◎	●	●	
365	アカネ	カギカズラ	Uncaria rhynchophylla (Miq.) Miq.	-	-	○	●	◎	●	●	
366	リンドウ	オスズハルリンドウ(仮称)	Gentiana sp.	VU-g	-	○		○		●	
367	リンドウ	タカナベリンドウ(仮称)★	Gentiana x	-	-			○		●	
368	リンドウ	リンドウ	Gentiana scabra Bunge var. buergeri (Miq.) Maxim. ex Franch. EtSav.	NT-g	-	◎	●	◎	●	●	
369	リンドウ	ツルリンドウ	Tripterospermum japonicum (Siebold et Zucc.) Maxim. var. japonicum	-	-	○		●			
370	マチン	アイナエ	Mitrasacme pygmaea R. Br.	-	-	◎	●	◎	●	●	
371	キョウチクトウ	テイカカズラ	Trachelospermum asiaticum (Siebold et Zucc.) Nakai var. asiaticum	-	-	◎	●	◎	●	●	
372	キョウチクトウ	コカメツル	Vincetoxicum floribunda (Miq.) franch. et Sav.	-	-	○	●	○	●		
373	ヒルガオ	マメアザガオ■	Ipomoea lacunosa L.	-	-	○		○		●	
374	ナス	イヌホオズキ	Solanum nigrum L.	-	-	◎	●				
375	ムラサキ	ハナイバナ	Bothriospermum zeylanicum (J. Jacq.) Druce	-	-	◎	●				
376	モクセイ	ネズミモチ	Ligustrum japonicum Thunb. var. japonicum	-	-	◎	●	◎	●	●	
377	オオバコ	サウトウガラシ	Deinostema violaceum (Maxim.) T. Yamaz.	NT-g	-	○	●	○	●		
378	オオバコ	マルバノサウトウガラシ	Deinostema adenocaulum (Maxim.) T. Yamaz.	EN-g VU	○	●					
379	オオバコ	シソクサ	Limnophila aromatica (Lam.) Merr.	NT-g	-	○	●	○	●		
380	オオバコ	ツボミオオバコ■	Plantago virginica L.	-	-	○	●	○	●		
381	オオバコ	オオバコ	Plantago asiatica L. var. asiatica	-	-	◎	●				
382	オオバコ	タチヌノフグリ■	Veronica arvensis L.	-	-	○	●	○	●		
383	オオバコ	オオイヌノフグリ■	Veronica persica Poir.	-	-	○	●	○	●		
384	アゼナ	スズメノトウガラシ	Bonnaaya antipoda (L.) Druce	-	-	○	●	◎	●	●	
385	アゼナ	ウリクサ	Vandellia viscosa (Hornein.) Merr.	-	-	◎	●	◎	●	●	
386	シソ	ヤブムラサキ	Callicarpa mollis Siebold et Zucc.	-	-			○		●	
387	シソ	ムラサキシキブ	Callicarpa japonica Thunb. var. japonica	-	-	○		○		●	
388	シソ	キラソウ	Ajuga decumbens Thunb.	-	-	○	●	◎	●	●	

No.	科 名	和 名 ■帰化 ▲栽培逸出 ★雑種	学 名	カテゴリー 県 国	2013			2024		
					計	東	西	計	東	西
389	シソ	クサギ	Clerodendrum trichotomum Thunb. var. trichotomum	- -	◎	●	◎	◎	●	●
390	シソ	コバノ タツナミ	Scutellaria indica L. var. parvifolia (Makino) Makino	- -	◎	●	◎	◎	●	●
391	シソ	ミズネコノオ	Pogostemon stellatus (Lour.) Kuntze	VU-g NT	○	●				
392	シソ	ヒメジソ	Mosla dianthera (Buch.-Ham. ex Roxb.) Maxim.	- -	◎	●	◎	◎	●	●
393	シソ	シラゲ(ヒカゲ)ヒメジソ	Mosla hirta (H. Hara) H. Hara	- -	○		●	○		●
394	シソ	トウバナ	Clinopodium gracile (Benth.) Kuntze	- -	○	●		◎	●	●
395	シソ	ヒメシロネ	Lycopus maackianus (Maxim. ex Herder) Makino	- -	○		●	○		●
396	ハエドクソウ	マツバウンラン■	Nuttallanthus canadensis (L.) D. A. Sutton	- -	○	●		◎	●	●
397	ハマウツボ	オオナンバンギセル	Aeginetia sinensis G. Beck	- -	○	●				
398	ハマウツボ	ゴマクサ	Centranthera cochinchinensis (Lour.) Merr. var. lutea (H. Hara) H. Hara	NT-g VU	◎	●	◎	◎	●	●
399	タヌキモ	ホザキノミミカキグサ	Utricularia caerulea L.	VU-r -	◎	●	◎	◎	●	●
400	タヌキモ	ミミカキグサ	Utricularia bifida L.	- -	◎	●	◎	◎	●	●
401	タヌキモ	ムラサキミミカキグサ	Utricularia uliginosa Vahl	VU-g NT	◎	●	◎	◎	●	●
402	タヌキモ	ミカワタヌキモ	Utricularia exoleta R. Br.	CR-r VU	○		●			
403	キツネノマゴ	オギノツメ	Hygrophila ringens (L.) R. Br. ex Spreng.	- -	◎	●	◎	◎	●	●
404	キツネノマゴ	キツネノマゴ	Justicia procumbens L. var. procumbens	- -	◎	●	◎	◎	●	●
405	モチノキ	イヌツゲ	Ilex crenata Thunb. var. crenata	- -	◎	●	◎	◎	●	●
406	モチノキ	ナナメノキ	Ilex chinensis Sims	- -	◎	●	◎	◎	●	●
407	モチノキ	クロガネモチ	Ilex rotunda Thunb.	- -	◎	●	◎	◎	●	●
408	モチノキ	タラヨウ	Ilex latifolia Thunb.	- -	○		●	○		●
409	モチノキ	ウメモドキ	Ilex serrata Thunb.	- -	○		◎	◎	●	●
410	キキョウ	サイヨウシャジン	Adenophora triphylla (Thunb.) A. DC. var. triphylla	- -	○	●		○	●	
411	キキョウ	ツルニンジン	Codonopsis lanceolata (Siebold et Zucc.) Trautv. var. lanceolata	- -	○		●	○		●
412	キキョウ	ヤヨイタニギキョウ(仮称)	Peracarpa sp.	- -				○		●
413	キキョウ	キキョウソウ■	Triodanis perfoliata (L.) Nieuwl.	- -	○	●		○	●	
414	キキョウ	ヒナギキョウソク■	Triodanis biflora (Ruiz et Pav.) Greene	- -	○	●				
415	キク	ノアザミ	Cirsium japonicum Fisch. ex DC. var. japonicum	- -	◎	●	◎	◎	●	●
416	キク	サツマアザミ	Cirsium austrokiushianum Kitam.	NT-g VU	○		●	○		●
417	キク	ヒメアザミ	Cirsium buergeri Miq.	- -	○	●				
418	キク	キツネアザミ	Hemistepta lyrata (Bunge) Fisch. Et C. A. Mey.	- -	○	●		◎	●	●
419	キク	タムラソウ	Serratula coronata L. subsp. insularis (Iljin) Kitam.	NT-g -				○		●
420	キク	ヤクシソウ	Crepidiastrum denticulatum (Houtt.) J. H. Pak et Kawano	- -	◎	●	◎			
421	キク	スイラン	Hololeion krameri (Franch. et Sav.) Kitam.	VU-r -	○		●	◎	●	●
422	キク	ニガナ	Ixeridium dentatum (Thunb.) Tzvelev subsp. dentatum	- -	◎	●	◎	◎	●	●
423	キク	オオジシバリ	Ixeris japonica (Burm. f.) Nakai	- -	○	●		○	●	
424	キク	イワニガナ	Ixeris stolonifera A. Gray	- -	○	●				
425	キク	アキノノゲシ	Lactuca indica L. var. indica	- -	○	●		◎	●	●
426	キク	ムラサキニガナ	Paraprenanthes sororia (Miq.) Chang ex C. Shih	- -	○	●				
427	キク	セイヨウタンポポ■	Taraxacum officinale Weber ex F. H. Wigg.	- -	◎	●	◎	◎	●	●
428	キク	オニタビラコ	Youngia japonica (L.) DC.	- -	○	●		○	●	
429	キク	ベニバナポロギク■	Crassocephalum crepidioides (Benth.) S. Moore	- -	◎	●	◎			
430	キク	ダンドポロギク■	Erechtites hieraciifolius (L.) Raf. ex DC.	- -	○	●				
431	キク	サワオグルマ	Tephrosia pierotii (Miq.) Holub	- -	◎	●	◎	◎	●	●
432	キク	サワシロギク	Aster rugulosus Maxim. var. rugulosus	NT-r -	○		●	○		●
433	キク	オオユウガギク	Aster yomena (Kitam.) Honda var. angustifolius (Nakai) Soejima et Igari	- -	○	●		○	●	
434	キク	イナカギク	Aster semiamplexicaulis (Makino) Makino ex Koidz.	CR-r -	○		●			
435	キク	シロヨメナ	Aster leiophyllus Franch. et Sav. var. leiophyllus	- -	○		●	○		●
436	キク	ハルジオン■	Erigeron philadelphicus L.	- -	○	●		○	●	
437	キク	ヒメジョオン■	Erigeron annuus (L.) Pers.	- -	○	●		◎	●	●
438	キク	セイタカアワダチソウ■	Solidago altissima L.	- -	◎	●	◎	◎	●	●
439	キク	アキノキリンソウ	Solidago virgaurea L. subsp. asiatica (Nakai ex H. Hara) Kitam. ex H. Hara var. asiatica Nakai ex H. Hara	- -				○		●
440	キク	ヨモギ	Artemisia indica Willd. var. maximowiczii (Nakai) H. Hara	- -	◎	●	◎	◎	●	●
441	キク	チチコグサ	Gnaphalium japonicum Thunb.	- -	○	●				
442	キク	ウスベニチチコグサ■	Gamochaeta purpurea (L.) A. L. Cabrera	- -	◎	●	◎	○		
443	キク	ウラジロチチコグサ■	Gamochaeta coarctata (Willd.) Kerguelen	- -	○	●		○	●	
444	キク	ハハコグサ	Pseudognaphalium affine (D. Don) Anderb.	- -	○	●		○	●	
445	キク	ヤブタバコ	Carpesium abrotanoides L.	- -	○		●	○		●
446	キク	ホソバガンクビソウ	Carpesium divaricatum Siebold et Zucc. var. abrotanoides (Koidz.) Kitam.	- -	○		●	○		●
447	キク	アメリカセンダングサ■	Bidens frondosa L.	- -	◎	●	◎	◎	●	●
448	キク	ヌマダイコン	Adenostemma lavenia (L.) Kuntze	- -	◎	●	◎	○		●
449	キク	オカダイコン	Adenostemma madurense DC.	- -	○		●	◎	●	●
450	キク	サウヒヨドリ	Eupatorium lindleyanum DC. var. lindleyanum	- -	◎	●	◎	◎	●	●
451	キク	ヒヨドリバナ	Eupatorium makinoi T. Kawahara et Yahara var. oppositifolium (Koidz.) T. Kawahara et Yahara	- -	○		●	◎	●	●
452	ウコギ	タラノキ	Aralia elata (Miq.) Seem.	- -	○		●	○		●
453	ウコギ	ヤツデ	Fatsia japonica (Thunb.) Decne. et Planch. var. japonica	- -	○		●	◎	●	●

No.	科 名	和 名 ■帰化 ▲栽培逸出 ★雑種	学 名	カテゴリー		2013				2024			
				県	国	計	東	西	計	東	西		
454	ウコギ	キヅタ	Hedera rhombea (Miq.) Bean	-	-	○		●	○			●	
455	ウコギ	オオチドメ	Hydrocotyle ramiflora Maxim.	-	-	○		●	○			●	
456	ウコギ	ノチドメ	Hydrocotyle maritima Honda	-	-	◎		●	○			●	
457	セリ	ツボクサ	Centella asiatica (L.) Urb.	-	-	◎		●	○			●	
458	セリ	シラネセンキュウ	Angelica polymorpha Maxim.	-	-	○		●		◎		●	
459	セリ	ヒュウガトウキ	Angelica furcijuga Kitag.	NT-g	VU							○	●
460	セリ	セリ	Oenanthe javanica (Blume) DC. subsp. javanica	-	-	○	●		○			●	
461	セリ	サケバゼリ	Oenanthe javanica (Blume) DC.	-	-	○	●		◎			●	
462	セリ	ムカゴニンジン	Sium ninsi L.	EN-r	-							○	●
463	ガマズミ	コバノガマズミ	Viburnum erosum Thunb. var. erosum	-	-	○		●	○			●	
464	ガマズミ	ガマズミ	Viburnum dilatatum Thunb.	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
465	スイカズラ	スイカズラ	Lonicera japonica Thunb. var. japonica	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
466	スイカズラ	ハマニンドウ	Lonicera affinis Hook. et Arn.	-	-	○		●					
467	スイカズラ	オトコエシ	Patrinia villosa (Thunb.) Juss.	-	-	○		●					
468	スイカズラ	オミナエシ	Patrinia scabiosifolia Link	-	-	○		●	○			●	
469	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	Lycopodium clavatum L. var. clavatum	-	-	○		●					
470	ヒカゲノカズラ	ミズスギ	Lycopodium cernuum L.	-	-	○		●	○			●	
471	イワヒバ	ヒメクラマゴケ	Selaginella heterostachys Baker	-	-	○	●		◎			◎	●
472	トクサ	スギナ	Equisetum arvense L.	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
473	トクサ	イヌドクサ	Equisetum ramosissimum Desf. subsp. ramosissimum	-	-							○	●
474	ハナヤスリ	フユノハナワラビ	Botrychium ternatum (Thunb.) Sw.	-	-	○	●						
475	ハナヤスリ	シチトウハナワラビ	Botrychium atrovirens (Sahashi) M. Kato	-	-							○	●
476	ゼンマイ	ゼンマイ	Osmunda japonica Thunb.	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
477	ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	Osmundastrum cinnamomeum (L.) C.Presl var. fokiense (Copel.) Tagawa	VU-r	-	○		●					
478	ウラボシ	ウラボシ	Gleichenia japonica Spreng.	-	-	○		●	○			●	
479	ウラボシ	コシダ	Dicranopteris linearis (Burm. f.) Underw.	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
480	カニクサ	カニクサ	Lygodium japonicum (Thunb.) Sw.	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
481	キジノオシダ	キジノオシダ	Plagiogyria japonica Nakai var. japonica	-	-	○		●	○			●	
482	キジノオシダ	ハガクレキジノオ★	Plagiogyria x neointermedia Nakaike	-	-	○		●					
483	ホングウシダ	ホラシノブ	Odontosoria chinensis (L.) J.Sm.	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
484	コバノイシカグマ	コバノイシカグマ	Dennstaedtia scabra (Wall. ex Hook.) T. Moore	-	-	○		●					
485	コバノイシカグマ	フモトシダ	Microlepia marginata (Panzer ex Houtt.) C. Chr.	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
486	コバノイシカグマ	イワヒメワラビ	Hypolepis punctata (Thunb.) Mett. ex Kuhn	-	-	○		●					
487	コバノイシカグマ	ワラビ	Pteridium aquilinum (L.) Kuhn var. latiusculum (Desv.) Underw. ex Hell.	-	-	○		●	○			●	
488	ヒメシダ	アイヒメワラビ★	Thelypteris x subviridifrons Seriz.	-	-	◎	●	◎					
489	ヒメシダ	ヒメワラビ	Thelypteris torresiana (Gaudich.) Alston var. calvata (Baker) K. Iwats.	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
490	ヒメシダ	ゲジゲジシダ	Thelypteris decursivepinnata (H. C. Hall) Ching	-	-	○		●	○				
491	ヒメシダ	ヤワラシダ	Thelypteris laxa (Franch. et Sav.) Ching	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
492	ヒメシダ	ハシゴシダ	Thelypteris glanduligera (Kunze) Ching	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
493	ヒメシダ	コハシゴシダ	Thelypteris angustifrons (Miq.) Ching	-	-	○	●		◎			◎	●
494	ヒメシダ	ハリガネワラビ	Thelypteris japonica (Baker) Ching	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
495	ヒメシダ	ミゾシダ	Stegnogramma pozoi (Lag.) K. Iwats. subsp. molissima (Fisch. ex Kunze) K. Iwats.	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
496	ヒメシダ	ホシダ	Thelypteris acuminata (Houtt.) C.V.Morton	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
497	シシガシラ	ハチジョウカグマ	Woodwardia orientalis Sw. var. formosana Rosenst.	-	-	◎	●	◎	○			◎	●
498	シシガシラ	オオカグマ	Woodwardia japonica (L. f.) J.Sm.	-	-							○	●
499	メシダ	シロヤマシダ	Diplazium hachijoense Nakai	-	-	○	●		○			●	
500	メシダ	コクモウクジャク	Diplazium virescens Kunze var. virescens	-	-							○	●
501	メシダ	ヘラシダ	Deparia lancea (Thunb.) Fraser-Jenk.	-	-	○	●		○			●	
502	メシダ	シケシダ	Deparia japonica (Thunb.) M. Kato	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
503	メシダ	アサマシケシダ	Diplazium magofukui Nakai	-	-	○		●	○			●	
504	メシダ	アイアサマシケシダ★	Deparia x	-	-	○	●	○	○			○	●
505	メシダ	ナチシケシダ	Deparia petersenii (Kunze) M. Kato var. petersenii	-	-	○		●	○			●	
506	メシダ	サツマシケシダ★	Deparia japonica (Thunb.) M. Kato x D. petersenii (Kunze) M. Kato	-	-	○	●		○			●	
507	メシダ	セイタカアサマシケシダ★	Deparia x	-	-							○	●
508	オシダ	ナガバノイタチシダ	Dryopteris sparsa (Buch.-Ham. ex D. Don) Kuntze var. sparsa	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
509	オシダ	ツクシイワヘゴ	Dryopteris commixta Tagawa	-	-	○		●	○				
510	オシダ	オオイタチシダ	Dryopteris pacifica (Nakai) Tagawa	-	-	○	●	◎	◎			◎	●
511	オシダ	ベニシダ	Dryopteris erythrosora (D. C. Eaton) Kuntze	-	-	◎	●	◎	◎			◎	●
512	オシダ	オオベニシダ	Dryopteris sustrojaponiensis Sa. Kurata, nom. nud.	-	-	○	●						
513	オシダ	ギフベニシダ	Dryopteris kinkiensis Koidz. ex Tagawa	CR-r	-							○	●
514	オシダ	オニコバカナワラビ★	Arachniodes x pseudosporadosora Nakaike, nom. nud.	-	-							○	●
515	オシダ	イノデ	Polystichum polyblepharon (Roem. ex Kunze) C. Presl	-	-	○	●		◎			◎	●
516	ウラボシ	ミツデウラボシ	Selliguea hastata (Thunb.) Fraser-Jenk.	-	-							○	●
517	ウラボシ	マメヅタ	Lemmaphyllum microphyllum C. Presl	-	-	○		●	◎			◎	●
518	ウラボシ	ノキシノブ	Lepisorus thunbergianus (Kaulf.) Ching	-	-	○	●		◎			◎	●

Ⅲ-2. 種類数内訳

1) 自生種と帰化種

図 2 に確認種と前回との比較を示した。自生種は前回（2013 年）には、396 種であったが、今回（2024 年）では、389 種確認できた。自生種は、前は東部湿原が多かったが、今回は西部湿原が多くなった。

帰化植物は、38 種から 34 種に僅かに減少し、東部湿原で増加、西部湿原で減少した。新規種としてセッカニワゼキショウ等があり、継続種のタチスズメノヒエ、メリケンカルカヤ、メリケンムグラが湿原全体に広がっていた。

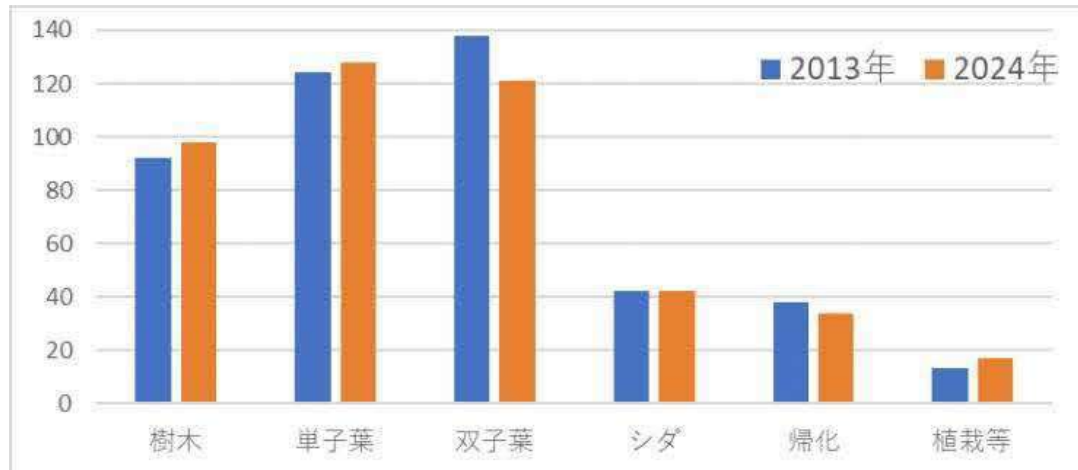


図 2 確認種の内訳と前回との比較

2) 今回（2024 年）に新しく見つかった植物

表 3 に新しく見つかった植物の一覧を示した。

内容は、No.、科名、和名、宮崎県カテゴリー、国カテゴリー、東部、西部湿原での有無（●）、及び備考（要因）で表記した。

帰化植物は、セッカニワゼキショウ、ハイニシキソウ等が新たに確認された。

植栽種は、ハマゴウ、シダレヤナギの新植が確認された。

DNA 解析等で細分された分類群種として、オスズネジバナ、トダシバ類、タカナベツツジ（新称）、タカナベリンドウ（新称）、ヤヨイタニギキョウが確認された。

精査で判明したものは、コシンジュガヤ（VU-r）ハリガネスゲ（NT-r）、ヒュウガトウキ（NT-g）、イヌシカクイ、オオハリイ、オオイヌノハナヒゲ、ササ類、アイミソハギ等である。

以前からあったと思われるが、見落とされていた種として、ムカゴニンジン（EN-r）、タムラソウ（NT-g）、センリョウ、ヤブニッケイ、ハナミョウガ、コバノウシノシッペイ、ヌカキビ、ナンテン、ツタ、スズメウリ、ミズヒキ、ノリウツギ、ツクシコガクウツギ、ヤブムラサキ、アキノキリンソウ、イズセンリョウ等が確認された。

シダ類は、イヌドクサ、シチトウハナワラビ、ミツデウラボシが新規確認された。

また、今回の精査でギフベニシダ（CR-r）、オオカグマ、コクモウクジャクが確認された。

		表3 高鍋湿原に新たに出現した植物					
No.	科名	和名	県2020	国2020	東部	西部	新規要因
5	センリョウ	センリョウ	-	-	●	●	精査
11	クスノキ	ヤブニッケイ	-	-		●	精査
21	ヤマノイモ	ニガカシュウ	-	-		●	精査
29	ユリ	オニユリ▲	-	-	●		植栽
38	ラン	トンボソウ	NT-r	-	●		精査
41	ラン	オスズネジバナ(白花もあり)	-	-		●	分類法
42	キンバイザサ	キンバイザサ	NT-g	-		●	精査
48	アヤメ	セッカニワゼキショウ■	-	-	●		侵入
62	ショウガ	ハナミョウガ	-	-		●	精査
86	カヤツリグサ	ハリガネスゲ	NT-r	-		●	精査
102	カヤツリグサ	イヌシカクイ	-	-		●	精査
106	カヤツリグサ	オオハリイ	-	-		●	精査
116	カヤツリグサ	オオイヌノハナヒゲ			●	●	精査
124	カヤツリグサ	コシンジュガヤ	VU-r	-		●	精査
130	イネ	ハチク▲			●		分類法
132	イネ	リュウキュウチク▲			●		分類法
134	イネ	イブキザサ	CR-r	-		●	分類法
135	イネ	イヌトクガワザサ	VU-r	-		●	分類法
136	イネ	ウツクシザサ	CR-r	-		●	分類法
137	イネ	アリマシノ	CR-r	-		●	分類法
138	イネ	ウンゼンザサ	CR-r	-		●	分類法
139	イネ	オニクジョウシノ	CR-r	-		●	分類法
140	イネ	ケナシカシダザサ	CR-r	-		●	分類法
141	イネ	ヒロウザサ	NT-g	-		●	分類法
150	イネ	オヒシバ	-	-	●		精査
160	イネ	セイタカトダシバ	-	-	●	●	分類法
161	イネ	クジュウトダシバ	-	-	●	●	分類法
162	イネ	ツクシトダシバ	-	-	●	●	分類法
163	イネ	タカナベトダシバ(仮称)	-	-	●		分類法
164	イネ	ナヨトダシバ(仮称)	-	-		●	分類法
167	イネ	コバノウシノシツペイ	-	-	●		精査
170	イネ	ササガヤ	-	-		●	精査
174	イネ	ヌカキビ	-	-	●	●	精査
176	イネ	スズメノヒエ	-	-	●		精査
182	イネ	エノコログサ	-	-	●		精査
188	メギ	ナンテン	-	-		●	精査
189	キンボウゲ	ボタンヅル	-	-		●	精査
199	ブドウ	ツタ	-	-		●	精査
223	グミ	ツルグミ	-	-	●		精査
263	ウリ	スズメウリ	-	-		●	精査
270	トウダイグサ	ハイニシキソウ■	-	-	●		侵入
271	トウダイグサ	コニシキソウ■	-	-	●		侵入
277	ヤナギ	シダレヤナギ▲	-	-	●		新植栽
287	オトギリソウ	コケオトギリ	-	-		●	精査
291	ミソハギ	アイミソハギ★	-	-	●		分類法
292	ミソハギ	エゾミソハギ	-	-	●		精査
294	アカバナ	チョウジタデ	-	-	●		精査
307	アオイ	ハマボウ▲	NT-g	-	●		新植栽
317	タデ	ミズヒキ	-	-	●	●	精査
328	ザクロソウ	クルマバザクロソウ	-	-	●		侵入
329	ミズキ	クマノミズキ	-	-		●	精査
332	アジサイ	ノリウツギ	-	-		●	精査
334	アジサイ	(ツクシ)コガクウツギ	-	-		●	分類法
338	サクラソウ	ヤブコウジ	-	-		●	精査
343	サクラソウ	イズセンリョウ	-	-		●	侵入
349	ツツジ	タカナベツツジ(仮称)★	-	-	●		分類法
367	リンドウ	タカナベリンドウ(仮称)★	-	-		●	分類法
386	シソ	ヤブムラサキ	-	-		●	精査
412	キキョウ	ヤヨイタニギキョウ(仮称)	-	-		●	精査
419	キク	タムラソウ	NT-g	-		●	精査
439	キク	アキノキリンソウ	-	-		●	精査
459	セリ	ヒュウガトウキ	NT-g	VU	●		精査
462	セリ	ムカゴニンジン	EN-r	-		●	精査
473	トクサ	イヌドクサ	-	-	●		精査
475	ハナヤスリ	シチトウハナワラビ	-	-		●	精査
498	シシガシラ	オオカグマ	-	-	●		精査
500	メシダ	コクモウクジャク	-	-	●		精査
507	メシダ	セイタカアサマシケシダ★	-	-		●	精査
513	オシダ	ギフベニシダ	CR-r	-	●		精査
514	オシダ	オニコバカナワラビ★	-	-	●		精査
516	ウラボシ	ミツデウラボシ	-	-		●	精査

3) 前回 (2013 年) から消えた植物

表 4 に確認できなかった植物一覧を示した。

内容は、No、科名、和名、宮崎県カテゴリー、国カテゴリー、東部、西部湿原での有無 (●)、及び備考 (要因) で表記した。

○帰化及び逸出・植栽

キショウブは特定外来種であり処分されていた。

○希少種

ヨウシュヤマゴボウ、ノジアオイ、ナガバギシギシ、ヒナギキョウソウ、ベニバナボロギク、ダンドボロギクは管理により消滅したと思われる。

希少種のみカワタヌキモ ((CR-r)、ヒナザサ (CR-r)、マルバノサワトウガラシ (EN-g)、ヤマトキソウ (VU-g)、ミズネコノオ (VU-g)、イトテンツキ (VU-g)、クログワイ (NT-g)、ホシクサ (NT-g) 等はガマ類繁茂による生育域減少と水位変動による遷移湿原の遷移、ハルザキヤツシロラン (VU-r) は環境変化と思われる。

○一般種

・遷移進行と思われる種。

オオナンバンギセル、カエデドコロ、アキカラマツ、カワラケツメイ、ナワシロイチゴ、アマチャヅル、ヒメアギスミレ等。

・他種圧迫と思われる種

オオバコ (ツボミオオガコ増加)、コモチマンネングサ等。

・管理作業によると思われる種。

ミヤマハハソ、オトコエシ、ムラサキニガナ、ヤクシソウ、コナスビ、ノミノフスマ、ヤエムグラ、ナガエフタバムグラ、イヌホオズキ等。

・誤記種

イナカギク (CR-r) は、シロヨメナ。

・調査で見落としの可能性がある種

アゼナルコスゲ、ジュズスゲ、イガガヤツリ、イヌクグ、コアゼガヤツリ、ハリイ。

○シダ類

ヤマドリゼンマイ (VU-r)、ヒカゲノカズラ、コバノイシカグマ、イワヒメワラビ等は管理、フユノハナワラビ等はチガヤ繁茂による遷移と思われる。

表4 高鍋湿原で確認できなかった植物							
No.	科名	和名	県2020	国2020	東部	西部	減少要因
8	ウマノスズクサ	オナガカンアオイ▲	CR-g	CR		●	照度不足
9	ウマノスズクサ	キンチャクアオイ▲	NT-g	VU		●	照度不足
24	ヤマノイモ	カエデドコロ	-	-	●		
33	ラン	ハルザキヤツシロラン	VU-r	VU		●	照度不足
39	ラン	ヤマトキソウ	VU-g	-		●	遷移
45	アヤメ	キショウブ▲	-	-	●		管理
54	ユリ	ミズコバギボウシ★	-	-		●	遷移
66	ホシクサ	ホシクサ	NT-g	-	●		ガマ繁茂
75	ホシクサ	オオホシクサ×ツクシクロイヌホヒゲ	-	-	●		ガマ繁茂
76	ホシクサ	ニッポンイヌノヒゲ×ツクシクロイヌノヒゲ	-	-	●		ガマ繁茂
77	ホシクサ	ヒロハイヌノヒゲ×ツクシクロイヌノヒゲ	-	-	●		ガマ繁茂
78	ホシクサ	ヒロハイヌノヒゲ×ニッポンイヌノヒゲ	-	-	●		ガマ繁茂
79	ホシクサ	オオホシクサ×ヒロハイヌノヒゲ	-	-	●		ガマ繁茂
85	カヤツリグサ	イトテンツキ	VU-g	NT		●	遷移
89	カヤツリグサ	アゼナルコスゲ	-	-	●		遷移
92	カヤツリグサ	ジュズスゲ	-	-	●		遷移
94	カヤツリグサ	イガガヤツリ	-	-	●		遷移
96	カヤツリグサ	イヌクグ	-	-	●		遷移
97	カヤツリグサ	コアゼガヤツリ	-	-		●	遷移
101	カヤツリグサ	クログワイ	NT-g	-		●	遷移
105	カヤツリグサ	ハリイ	-	-		●	遷移
144	イネ	アオカモジグサ	-	-	●		管理
146	イネ	トボシガラ	-	-	●		管理
149	イネ	カニツリグサ	-	-	●	●	管理
153	イネ	ヒナザサ	CR-r	NT	●		ガマ繁茂
159	イネ	トダシバ（細分された）	-	-	●	●	細分
177	イネ	スズメノコビエ	-	-		●	遷移
180	イネ	ヌメリグサ	-	-	●	●	誤認
183	イネ	ムラサキエノコロ	-	-	●		管理
193	キンボウゲ	アキカラマツ	-	-	●		遷移
194	アワブキ	ミヤマハハソ	-	-		●	管理
196	ベンケイソウ	コモチマンネングサ	-	-	●		管理
202	マメ	カワラケツメイ	-	-	●		遷移
203	マメ	ヤブマメ	-	-	●		遷移
208	マメ	ヤマハギ	-	-		●	誤認
227	ニレ	ケヤキ	-	-	●		誤認
234	バラ	アイキンミズヒキ★	-	-	●		遷移
239	バラ	ミヤコイバラ	-	-		●	遷移
245	バラ	ナワシロイチゴ	-	-	●		遷移
261	ウリ	アマチャヅル	-	-	●		管理
274	コミカンソウ	ヒメミカンソウ	-	-	●		管理
284	スミレ	ヒメアギスミレ	-	-		●	遷移
308	アオイ	ノジャアオイ■	-	-		●	管理
322	タデ	ナガバギシギシ■	-	-	●		管理
325	ナデシコ	ノミノフスマ	-	-	●		遷移
327	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ■	-	-	●		管理
330	ミズキ	ミズキ	-	-		●	誤認
340	サクラソウ	コナスビ	-	-		●	遷移
357	アカネ	ヤエムグラ	-	-	●		管理
361	アカネ	ハシカグサ	-	-		●	管理
363	アカネ	ナガエフタバムグラ	-	-		●	管理
369	リンドウ	ツルリンドウ	-	-		●	誤認
374	ナス	イヌホオズキ	-	-	●	●	管理
375	ムラサキ	ハナイバナ	-	-	●	●	管理
378	オオバコ	マルバノサワトウガラシ	EN-g	VU	●		ガマ繁茂
381	オオバコ	オオバコ	-	-	●	●	ツボミオオバコ
391	シソ	ミズネコノオ	VU-g	NT	●		ガマ繁茂
397	ハマウツボ	オオナンバンギセル	-	-	●		遷移
402	タヌキモ	ミカワタヌキモ	CR-r	VU		●	遷移
414	キキョウ	ヒナギキョウソク■	-	-	●		管理
417	キク	ヒメアザミ	-	-	●		誤認
420	キク	ヤクシソウ	-	-	●	●	管理
424	キク	イワニガナ	-	-	●		管理
426	キク	ムラサキニガナ	-	-	●		管理
429	キク	ベニバナボロギク■	-	-	●	●	管理
430	キク	ダンドボロギク■	-	-	●		管理
434	キク	イナカギク	CR-r	-		●	
441	キク	チチコグサ	-	-	●		管理
466	スイカズラ	ハマニンドウ	-	-		●	管理
467	スイカズラ	オトコエシ	-	-		●	管理
469	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	-	-		●	管理
474	ハナヤスリ	フユノハナワラビ	-	-	●		遷移
477	ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	VU-r	-		●	管理
482	キジノオシダ	ハガクレキジノオ★	-	-		●	管理
484	コバノイシカグマ	コバノイシカグマ	-	-		●	管理
486	コバノイシカグマ	イワヒメワラビ	-	-		●	管理
488	ヒメシダ	アイヒメワラビ★	-	-	●	●	管理
512	オシダ	オオベニシダ	-	-	●		管理

↓
シダ植物

Ⅲ-3. 湿原の希少種

1) 希少種(RD種)の種数

高鍋湿原の植物のうち、宮崎県の絶滅危惧種(RD種)に指定されているのは、表5のとおりである。カテゴリーが前回(2013年)は2010年版、今回(2024年)は2020年版であり、2020年版3訂でササ類やNTが多種追加されていることに留意が必要である。

前回は計38種だったものが、今回は、計71種と33種増加している。CR-r種の増加はササ6種確認による。一方で、CR-rのミカワタヌキモとヒナザ、EN-gのマルバノサワトウガラシが減少しているのは気がかりである。

表5 高鍋湿原のRD種数(自生種)										
宮崎県カテゴリー	CR-r	CR-g	EN-r	EN-g	VU-r	VU-g	NT-r	NT-g	合計	県RDB
2013年	6	2	5	2	4	9	0	10	38	2010年版
2024年	11	2	4	2	7	13	8	24	71	2020年版
増減	5	0	▲1	0	3	4	8	14	33	

※CR絶滅危惧ⅠA、EN絶滅危惧ⅠB、VU絶滅危惧Ⅱ、NT準絶滅危惧。g・rは過去多・希

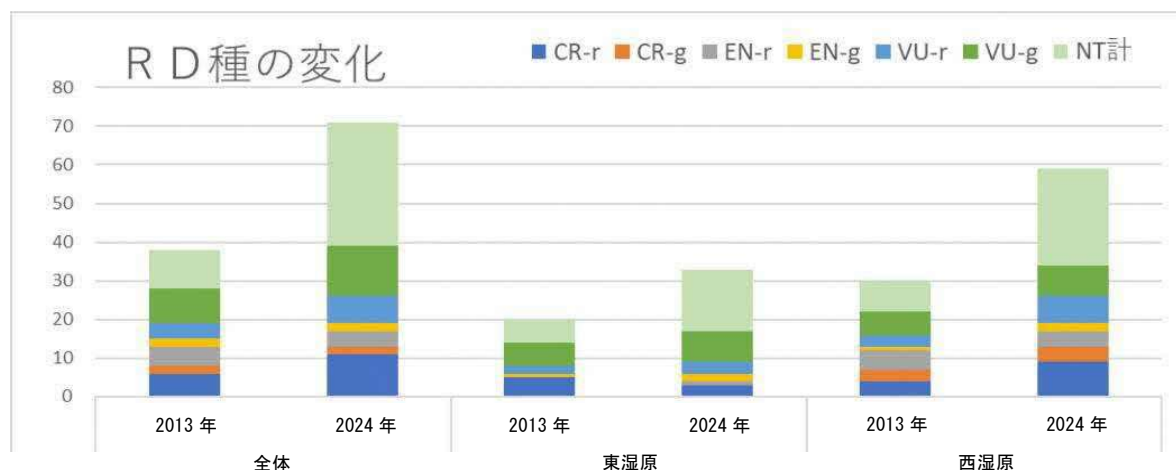


図3 RD種の内訳と前回との比較

2) 各エリア別の希少種(RD種)の種数

これらのRD種が東部・西部湿原の各エリアに生育しているかを表6に示した。

表6 高鍋湿原のRD種のエリアごとの種数(自生種)																
	湿原 全体	東部湿原						西部湿原								全域
		A	B	C1	C2	D	全域	E	F	G	H	I	J	K	全域	
CR-r	11	2	2		1	1	3	2		2	7	3	1	1	9	
CR-g	2						0	1		1		1		1	4	
EN-r	4	1		1			1	1	1	1	1	4	3	3	4	
EN-g	2	2					2	1		1	1	1	1	1	2	
VU-r	7	2	2	2	1		3	1	1	3	1	6	3	3	7	
VU-g	13	6	2	1	1	2	8	2	1	3	2	4	4	3	8	
NT-r	8	3	2				3	1	2	4	2	3	5	5	7	
NT-g	24	7	7	4	3	5	13	4	5	8	4	10	8	10	18	
計	71	23	15	8	6	8	33	13	10	23	18	32	25	27	59	

全域の数値は、重複しないようにしてある。

高鍋湿原でとこが良好なエリアであるかを評価すると、RD 種（希少種）の多いエリアが湿原として良好といえる。評価すると、西部湿原（54）＞東部湿原（37）であり、エリア順では、I（29）、J（27）、A（24）、G（23）、K（16）、H（16）、B（15）、E（13）が 10 以上となっている。10 未満は F（9）～、C（8）、D（8）となっている。

IV 花暦

表 7 に前回（2013 年）と今回（2024 年）に開花を確認した種リストを示した。

内容は、No.、科名、和名、各月の状況（☆開花確認、□推定。実は果実が見頃の時期）である。

前回の調査は、5 月から 10 月までの調査であったが、今回は 4 月から 11 月まで調査を行ったことと、前回リストを活用して効率的な調査ができたため各月とも開花種数が増加している。

高鍋湿原の開花種数は、従来から言われているとおり、春（4・5 月）と秋（9・10 月）の 2 ピークがあることが、数値からも裏付けられた。

しかし、今回は、年平均気温が観測史上最も高く、夏場は猛暑が続き、秋らしい気配がなく、植物の開花時期も遅れたり、ボケ咲があるなど変動が大きかった。秋に開花種数が最も多いのはキク科、イネ科、ホシクサ科の開花によるものである。

なお、この結果は湿原全体を評価したものであり、湿原来訪者は遊歩道を探索されるので、現在使用している花暦様式が配布には適していると思われる。

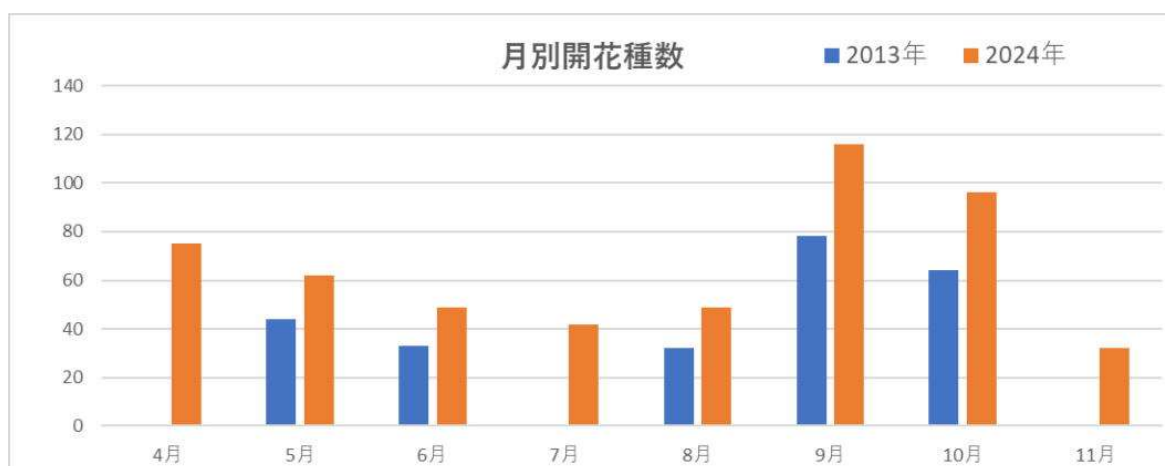


図 4 月別の開花数と前回との比較

表7 高鍋湿原の各月毎の開花状況		☆確認、□文献推定											
科名	和 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
マツブサ	サネカズラ						□		☆	☆		実	
センリョウ	センリョウ						□					実	実
ドクダミ	ドクダミ					☆	☆						
クスノキ	ヤブニッケイ				☆	☆							実
クスノキ	カゴノキ							実		☆			
クスノキ	アオモジ			□								実	
クスノキ	タブノキ			□	☆			実					
クスノキ	シロダモ											☆	実
サトイモ	ナンゴクウラシマソウ				☆								
サトイモ	ムサシアブミ				☆								
サトイモ	ヒメテンナンショウ				☆								
キンコウカ	ソクシンラン				☆								
ヤマノイモ	ヤマノイモ								☆			実	
シュロソウ	ツクシショウジョウバカマ			□	実								
サルトリイバラ	サルトリイバラ				☆							実	
ユリ	コオニユリ							☆	実				
ラン	カキラン					☆	☆	実	実				
ラン	ミズトンボ									☆	☆		
ラン	コ克蘭						☆				実	実	
ラン	ニラバラシ			□	☆		実						
ラン	サギソウ							☆	☆	☆	実		
ラン	ネジバナ						☆						
ラン	オスズネジバナ					☆							
キンバイザサ	コキンバイザサ					☆	☆						
アヤメ	ニワゼキショウ■					☆	☆						
アヤメ	セッカニワゼキショウ■					☆	☆						
ヒガンバナ	キツネノカミソリ▲								☆	☆	実		
クサスギカズラ	ミズギボウシ									☆	実		
クサスギカズラ	ミヤマナルコユリ				☆	実							
ツユクサ	ツユクサ								☆	☆	☆		
ツユクサ	ヤブミョウガ							☆		実			
ショウガ	ハナミョウガ	実			☆	□							実
ガマ	コガマ							☆	☆	穂	穂		
ガマ	ヒメガマ						☆	☆	☆	穂	穂		
ホシクサ	イトイヌノヒゲ								☆	☆	☆		
ホシクサ	クロホシクサ									☆			
ホシクサ	アマノホシクサ										☆		
ホシクサ	オオホシクサ									☆	☆		
ホシクサ	シロイヌノヒゲ								☆	☆	☆		
ホシクサ	ツクシクロイヌノヒゲ										☆		
ホシクサ	ヒロハノイヌノヒゲ										☆		
ホシクサ	ニッポンイヌノヒゲ									☆	☆		
ホシクサ	ホウキボシイヌノヒゲ									☆	☆		
イグサ	タカナベイ						☆						
イグサ	イグサ					☆	☆						
イグサ	コウガイゼキショウ					☆							
カヤツリグサ	ハリガネスゲ				☆								
カヤツリグサ	ヤチカワズスゲ					☆							
カヤツリグサ	ゴウソ				☆	実							
カヤツリグサ	タチスゲ				☆	☆							
カヤツリグサ	カワラスガナ										☆		
カヤツリグサ	アゼガヤツリ									□			
カヤツリグサ	ツルナシコアゼガヤツリ								☆	☆	☆		
カヤツリグサ	オニガヤツリ								☆	☆	☆		
カヤツリグサ	カガシラ									☆	☆		
カヤツリグサ	イヌシカクイ									☆			
カヤツリグサ	シカクイ									☆			
カヤツリグサ	オオハリイ									☆	☆		
カヤツリグサ	ヒデリコ									☆	☆		
カヤツリグサ	クロテンツキ									☆			
カヤツリグサ	ノテンツキ										☆		
カヤツリグサ	ヤマイ						☆	☆	☆				
カヤツリグサ	テンツキ									☆			
カヤツリグサ	クグテンツキ									☆			
カヤツリグサ	ヒメテンツキ										☆		
カヤツリグサ	クロタマガヤツリ										☆		
カヤツリグサ	イヌノハナヒゲ									☆	☆		
カヤツリグサ	オオイヌノハナヒゲ				☆	☆			☆	☆			

科名	和 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カヤツリグサ	コイヌノハナヒゲ									☆	☆		
カヤツリグサ	イトイヌノハナヒゲ								☆	☆			
カヤツリグサ	カンガレイ						☆		☆				
カヤツリグサ	フトイ						☆						
カヤツリグサ	アブラガヤ							☆	☆	☆			
カヤツリグサ	ツクシアブラガヤ				☆								
カヤツリグサ	コシンジュガヤ								☆	☆			
カヤツリグサ	ミカワシンジュガヤ									☆			
カヤツリグサ	ケシンジュガヤ									☆			
カヤツリグサ	マネキシシジュガヤ									☆			
イネ	ヌカボ					☆							
イネ	ヒメコバンソウ■				☆								
イネ	カモジグサ				☆								
イネ	クサヨシ					☆							
イネ	イトスズメガヤ									☆			
イネ	ツルヨシ									☆	☆	☆	
イネ	チゴザサ								☆	☆			
イネ	ハイチゴザサ									☆	☆	☆	
イネ	ササクサ									☆	☆	☆	
イネ	メリケンカルカヤ■									☆	☆	☆	
イネ	コブナグサ									☆	☆	☆	
イネ	セイタカトダシバ									☆	☆		
イネ	クジュウトダシバ									☆	☆		
イネ	ツクシトダシバ									☆	☆		
イネ	タカナベトダシバ（仮称）										☆		
イネ	ナヨトダシバ（仮称）										☆		
イネ	メヒシバ									☆	☆	☆	
イネ	カリマタガヤ										☆		
イネ	チガヤ				☆						☆		
イネ	カモノハシ									☆	☆		
イネ	ササガヤ										☆		
イネ	オギ									☆	☆		
イネ	ススキ									☆	☆	☆	
イネ	チヂミザサ									☆	☆	☆	
イネ	ヌカキビ										☆	☆	
イネ	タチスズメノヒエ■						☆	☆	☆	☆	☆	☆	
イネ	アメリカスズメノヒエ■						☆	☆	☆	☆	☆	☆	
イネ	ハイヌメリグサ									☆	☆		
イネ	ハラヌメリ									☆	☆		
イネ	エノコログサ										☆		
アケビ	ミツバアケビ			□	☆						実		
アケビ	ムベ				☆						実		
メギ	ヘビノボラズ				☆						実	実	
メギ	ナンテン				☆	☆	☆						実
キンボウゲ	カザグルマ▲				☆	実							
キンボウゲ	ケキツネノボタン			□	☆	☆							
アリノトウグサ	アリノトウグサ							☆	☆	実			
ブドウ	ノブドウ						☆	☆				実	
マメ	ネムノキ						☆	☆	☆	実			
マメ	ツルマメ									☆			
マメ	コマツナギ						☆	☆	□	□			
マメ	ヤハズソウ				☆								
マメ	ツクシハギ										☆		
マメ	ネコハギ									☆			
マメ	メドハギ									☆	☆		
マメ	ミヤコグサ				☆	☆	☆						
マメ	クズ								☆	☆	実		
マメ	シロツメクサ■				☆	☆	☆	☆					
マメ	ヤハズエンドウ			□	☆	実							
マメ	ヤマフジ				☆			実					
マメ	ナツフジ							☆		実			
ヒメハギ	ヒメハギ				☆	☆							
ヒメハギ	ヒナノカンザシ								☆	☆			
グミ	アキグミ				☆						実	実	
グミ	ナワシログミ			実									□
クロウメモドキ	イソノキ							☆	実	実			
クワ	イヌビワ								実	実			
クワ	ヤマグワ				□	実							
バラ	ヒメキンミズヒキ						☆	☆		☆	☆		
バラ	キンミズヒキ								☆	☆	☆		

科名	和 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
バラ	ヘビイチゴ					□	□	☆	実				
バラ	ミツバツチグリ			□	☆	□							
バラ	ノイバラ				☆	☆	☆						
バラ	ヤブイバラ						☆						
バラ	テリハノイバラ						☆	☆					
バラ	フユイチゴ	実									□		
バラ	ナガバノモミジイチゴ				☆	実							
バラ	クサイチゴ			□	□	実							
バラ	コバナノワレモコウ							☆	☆		☆	☆	
バラ	タカナベカイドウ▲				□						実		
バラ	シャリンバイ					□	□	☆				実	
ブナ	ツブラジイ					☆						実	
ブナ	シリブカガシ							☆	☆				
ブナ	アラカシ				☆						実	実	
カバノキ	サクラバハノキ		□	□						実			
ウリ	カラスウリ							☆	☆		実	実	
ニシキギ	マユミ					☆							
ニシキギ	ツリバナ				☆	☆							
ニシキギ	ウメバチソウ											☆	実
カタバミ	カタバミ					☆	☆	☆					
カタバミ	オッタチカタバミ■					□	☆	☆	□	☆			
トウダイグサ	アカメガシワ						☆		実				
トウダイグサ	ナンキンハゼ▲						☆				実		
スマレ	スマレ			□	☆								
スマレ	フモトスマレ			□	☆								
スマレ	ツボスマレ			□	☆	☆							
スマレ	アギスマレ					☆							
スマレ	タチツボスマレ		□	□	☆								
オトギリソウ	ヒメオトギリ						☆	☆	☆	☆	☆		
オトギリソウ	オトギリソウ							☆	☆	☆			
フウロソウ	アメリカフウロ■				☆	☆							
ミソハギ	ミソハギ							☆	☆	☆	☆		
アカバナ	コマツヨイグサ■						☆	□	□	□			
ノボタン	ヒメノボタン							☆	☆	☆	☆	☆	
ミツバウツギ	ゴンズイ				☆	☆	☆				実	実	
キブシ	キブシ			□	☆	実	実						
ウルシ	ヌルデ									☆	実		
ウルシ	ヤマウルシ					☆				実			
ウルシ	ヤマハゼ				☆	☆							
ミカン	カラスザンショウ							☆	☆		実		
ミカン	イヌザンショウ								☆		実		
センダン	センダン					☆					実	実	
アオイ	アメリカキンゴジカ■									☆	☆		
タデ	イタドリ							☆	☆	☆	実		
タデ	ミソソバ				☆	☆	☆		☆	☆	☆		
タデ	ウナギツカミ						☆			☆	☆		
タデ	ミズヒキ									☆	☆		
タデ	イヌタデ					☆	☆			☆	☆		
タデ	スイバ			□	☆	☆							
モウセンゴケ	モウセンゴケ						☆						
ナデシコ	オランダミミナグサ■			□	☆	□							
ヒユ	ヒカゲイノコヅチ									☆			
アジサイ	マルバウツギ					☆							
アジサイ	ノリウツギ									☆			
アジサイ	(ツクシ)コガクウツギ				☆	実					実		
サカキ	ヒサカキ			□	☆								実
サクラソウ	マンリョウ							☆	□				実
サクラソウ	ヌマトラノオ							☆	☆	☆			
サクラソウ	オカトラノオ							☆					
サクラソウ	イズセンリョウ				☆								実
ツバキ	ヤブツバキ		□	□	☆								
ハイノキ	クロキ			□	☆		実						
エゴノキ	エゴノキ				☆		実	実					
ツツジ	ヤマツツジ				□	□							
ツツジ	フジツツジ			□									
ツツジ	オンツツジ				☆								
ツツジ	ネジキ				☆	☆				実			
ツツジ	アセビ			□	□		実						
アオキ	アオキ	実		□	□							実	実
アカネ	クチナシ	実				☆	☆						実

科名	和 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アカネ	メリケンムグラ■						☆	☆	☆	☆	☆	☆	
アカネ	サツマルリミノキ					□						実	
アカネ	サツマイナモリ	□	□	□									□
アカネ	ヘクソカズラ								☆	☆		実	
リンドウ	オスズハルリンドウ				☆	☆							
リンドウ	リンドウ										☆	☆	
マチン	アイナエ									☆	☆		
キョウチクトウ	テイカカズラ					☆	☆					実	
キョウチクトウ	コカモメヅル						☆	☆	☆				
モクセイ	ネズミモチ					☆	☆					実	
オオバコ	サワトウガラシ									☆	☆		
オオバコ	シソクサ										☆		
オオバコ	ツボミオオバコ■				☆								
オオバコ	オオイヌノフグリ■			□	☆	☆	実						
アゼナ	スズメノトウガラシ									☆			
アゼナ	ウリクサ									☆	☆		
シソ	ヤブムラサキ						☆	☆					実
シソ	キランソウ			□	☆	☆				☆			
シソ	クサギ							☆	☆			実	
シソ	コバノタツナミ				☆	☆							
シソ	ヒメジソ										☆	☆	
シソ	シラゲヒメジソ										☆	☆	
シソ	トウバナ				☆								
シソ	ヒメシロネ									☆	☆		
ハエドクソウ	マツバウンラン■				☆								
ハマウツボ	ゴマクサ								☆	☆	☆	☆	
タヌキモ	ホザキノミミカキグサ							☆	☆	☆	☆		
タヌキモ	ミミカキグサ						☆	☆	☆	☆	☆	☆	
タヌキモ	ムラサキミミカキグサ						☆	☆	☆	☆			
キツネノマゴ	オギノツメ									☆	☆		
キツネノマゴ	キツネノマゴ									☆	☆		
モチノキ	ナナメノキ					☆							実
モチノキ	ウメモドキ					☆				実			
キキョウ	サイヨウシャジン									☆	☆		
キキョウ	ヨヨイタニギキョウ（仮称）			□									
キク	ノアザミ				☆	☆	☆						
キク	サツマアザミ									☆	☆	☆	
キク	キツネアザミ				☆								
キク	タムラソウ										☆	☆	
キク	スイラン								☆	☆	☆	☆	
キク	ニガナ					☆	☆						
キク	オオジシバリ				☆								
キク	アキノノゲシ									☆	☆		
キク	セイヨウタンポポ■				☆	☆							
キク	オニタビラコ				☆								
キク	サワオグルマ			□	☆	☆							
キク	サワシロギク							☆	☆	☆	☆		
キク	オオユウガギク									☆	☆		
キク	シロヨメナ											☆	
キク	ハルジオン■					☆							
キク	ヒメジョオン■					☆	☆	☆	☆				
キク	セイタカアワダチソウ■										☆		
キク	アキノキリンソウ											☆	
キク	ヤブタバコ										☆		
キク	ホソバガンクビソウ									☆	☆		
キク	アメリカセンダングサ■									☆	☆		
キク	ヌマダイコン										☆	☆	
キク	オカダイコン									☆	☆	☆	
キク	サワヒヨドリ								☆	☆	☆	☆	
キク	ヒヨドリバナ								☆	☆	☆		
ウコギ	タラノキ							☆			実		
ウコギ	ヤツデ	実										☆	□
セリ	シラネセンキュウ				☆	☆						☆	
セリ	セリ						☆						
セリ	ムカゴニンジン									☆	☆		
ガマズミ	コバノガマズミ				☆	☆					実	実	
ガマズミ	ガマズミ				☆	☆					実	実	
スイカズラ	スイカズラ				☆	☆					実		
スイカズラ	オミナエシ								☆	☆	☆		

V 高鍋湿原の希少種解説

(1) レッドデータ対象種

絶滅度のカテゴリーは、宮崎県のカテゴリー・重要度、「」は環境省の国のカテゴリーの順で示した。「ー」は国の RD 種の対象ではないことを示している。種の配列は絶滅度カテゴリーの順にした。しかし、ササ類だけはまとめている。

1) DNA 解析で新種となった植物

○新種記載されたが 2030 年版 RDB で絶滅危惧 I A 類(CR-r) 候補となるもの

オスズネジバナ ラン科 *Spiranthes minamitaniana* Suetsugu

2023 年 6 月に国際論文で神戸大学の末次博士が正式記載された新種。川南湿原で南谷が発見したもの。ネジバナとは小型で、花茎や花が無毛で、柱頭の上部がほぼ平坦になる。花は早く 5 月下旬に咲く。川南・高鍋湿原にしかなく、湿地に生える。西部湿原で見ることができる。

○新種候補であるが、正式記載されていないもの

オスズハルリンドウ(渡邊仮称) リンドウ科 *Gentiana* sp.

絶滅危惧 I A 類(CR-r) 県重要度：A 「ー」

2020 県 RDB に和名をヒュウガハルリンドウ(仮称)としていたものを変更する。カテゴリー等は同じである。

ハルリンドウは草原性のものであるが、本種は湿地性で花茎が軟弱で長く伸びる。尾瀬ヶ原等の高山の湿原に生えるタテヤマリンドウに近い。おそらく、タテヤマリンドウが氷河期に南下したものが川南・高鍋の湿原に取り残され、独自の進化により別種になったものと思われる。

ホウキボシイヌノヒゲ(南谷新称) ホシクサ科 *Eriocaulon* sp.

宮崎県カテゴリー：絶滅危惧 I A 類(CR-r) 県重要度：A 「ー」

無茎の一年草。イヌノヒゲの近似種であるが、より大型で、総苞片が 2cm ほどにもなり、日本産ホシクサ類中最も長い。和名は、総苞片が長く、蕾の時期には彗星(ほうきぼし)に似ていることによる。新富町と高鍋湿原の 2 カ所のみ。高鍋湿原では、個体数も増え、広がっている。正式発表されていない。

分布：宮崎県児湯地区固有

オスズサギソウ(渡邊仮称) ラン科 *Habenaria* sp.

宮崎県カテゴリー：未定 宮崎県重要度：未定 「ー」

これまでサギソウとされていたが、川南湿原のものは DNA 解析により別種とされた。花の距が長く、最下のロゼット葉が細く小さい。高鍋湿原のものと同じものと思われるが、以前バイテクで増殖した株が移入された経緯があり、全ての個体がオスズサギソウになるのか疑問が残る。DNA 解析と個体毎の形態解析が必要であろう。

分布：県内 川南町、高鍋町 県外 なし

2) 2020 年版 RDB 掲載種：対象種の全てをあげていない。

カザグルマ キンポウゲ科 Clematis patens

絶滅危惧 I A 類(CR-r) 県重要度：A 「準絶滅危惧(NT)」

林縁に生える落葉性つる植物。花は 4-5 月に咲き、白色と淡紫色があるが高鍋湿原のものは淡紫色。花弁は 8 枚あり大型の花は美しい。西部湿原に大きな株があったが、消滅し絶滅と思われたが、小株が再確認され復活した。

分布：県内 県中、県西。県外 本州、四国、九州。 朝鮮半島、中国。

ハラヌメリ イネ科 Sacciolepis myosuroides

絶滅危惧 I A 類(CR-r) 県重要度：A 「絶滅危惧 I A 類 (CR)」

ヌメリグサの 1 種で、草丈 30-50cm の一年草。1952 年に長沢光男が川南町で採集した標本にもとづき、日本での自生が確認された。その後の現地調査では川南町その他、高鍋町で確認できた。他のヌメリグサ類との違いは花序が長く、上位小花がほぼ小穂と同長で小穂が小粒で卵形である。日本には川南・高鍋町のみ。

分布：県内 川南町、高鍋町 県外 日本にはない 中国、台湾、アジア、豪州

アマノホシクサ ホシクサ科 Eriocaulon amanoanum

絶滅危惧 I 類(CR-g) 県重要度：A 「絶滅危惧 I 類 (CR)」

水田に生える無茎の一年草でホシクサ類では小型。クロホシクサに極めて似ており、頭花の色が若いときには両者とも白っぽいが、果期にはクロホシクサは黒っぽくなるのに対し、アマノホシクサはいつまでも白っぽい。宮崎平野の水田には結構生えていたが、1990 年代後半より減少度が著しい。

分布：県内 川南町、高鍋町、新富町、西都市、宮崎平野

県外 九州(鹿児島県)、沖縄県 日本固有

ノテンツキ カヤツリグサ科 Fimbristylis complanata

絶滅危惧 I A 類(CR-r) 宮崎県重要度：C 「一」

湿気のある草地に生える多年生草本。40 cmほどになる。地味な花で目立たないが全国的減少傾向にある。高鍋湿原のものは消滅したと思われたが、今回の調査で生育が確認された。

分布：県内 現存確認は高鍋湿原のみ。 県外 本州、四国、九州、沖縄県

朝鮮半島、中国印越

【ササ類】：ササ類の見分け方は外観が似通っているので、一見したただの見分けはできない。ササ類の分類の決め手となるのは、葉と稈鞘(茎を被う鞘)の毛の有無である。従って、実体顕微鏡かルーペが必要となる。ここでは、種の分類解説は省いている。

イブキザサ イネ科 Sasa tsuboiana

絶滅危惧 I A 類(CR-r) 県重要度：A 「一」

伊吹山をタイプ地とする、いかにも笹らしいササ。草丈は 1(-1.5)m ほど。

分布：県内 高千穂町、高鍋町、小林市 県外 本州、四国、九州(北部)

高千穂町五ヶ所高原では景観構成種として重要であるが、西部湿原の林内に生え、光量不足で消滅の危機にある。南限域。

ウツクシザサ イネ科 Sasa pulcherrima

絶滅危惧 I A 類(CR-r) 県重要度：A 「一」

草丈は 50cm ほどで、茎が細くすらりとしている。南限域。

分布：県内 川南町、高鍋町 県外 本州、四国、九州

ウンゼンザサ イネ科 *Sasa gracillima*

絶滅危惧ⅠA類(CR-r) 県重要度：A 「－」

雲仙をタイプ地とする。草丈は 50cm ほどで、茎は細い。南限域。

分布：県内 延岡市、高鍋町、小林市 県外 本州、九州

オニグジョウシノ イネ科 *Sasaella caudiceps*

絶滅危惧ⅠA類(CR-r) 県重要度：A 「－」

草丈は 1-2m ほどになる。九州では高鍋湿原だけであろう。南限域。

分布：県内 高鍋町 県外 本州(中部)

ケナシカシダザサ イネ科 *Sasa oshidensis* subsp. *glabra*

絶滅危惧ⅠA類(CR-r) 県重要度：A 「－」

草丈は 50cm ほどの小型のもの。南限域。

分布：県内 高鍋町、国富町、宮崎市、日南市 県外 本州、四国、九州(北部)

アリマシノ イネ科 *Sasaella kogasensis* var. *yoshinoi*

絶滅危惧ⅠA類(CR-r) 県重要度：B 「－」

草丈は 1-2m ほどになる。九州では高鍋湿原だけであろう。南限域。

分布：県内 高鍋町 県外 本州

イヌトクガワザサ イネ科 *Sasa tyuhgokensis* Makino

準絶滅危惧Ⅱ類(VU-r) 県重要度：B 「－」

草丈は 1(-1.5)m ほど。県内にはもっと広く分布していると思われる。

分布：県内 高千穂町、高鍋町、宮崎市、えびの市 県外 本州、四国、九州(北部)

ヒロウザサ イネ科 *Pleioblastus nagashima*

準絶滅危惧(NT-g) 県重要度：C

草丈は 1-2m ほどになり、茎が上部で分岐する大型のもの。

分布：県内 高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、日向市、高鍋町、宮崎市、三股町、
日南市 県外 本州、四国、九州

ミヤマナルコユリ クサスギカズラ科 *Polygonatum lasianthum*

絶滅危惧ⅠA類(CR-g) 県重要度：A 「－」

茎は高さ 30-60cm、下半部は直立し、上半部は斜上する。葉は茎の上半に水平にまばらに並ぶ。
質は少し固く卵状だ円形。花期は 5-6 月、葉腋に細長い柄を出し、先に下向きの白い花をつける。
南限。宮崎県には西諸地方と高鍋湿原のみに産する。

分布：県内 県中、県西。 県外 北海道、本州、四国、九州。 朝鮮半島。

ギフベニシダ オシダ科 *Dryopteris kinkiensis*

絶滅危惧ⅠA類(CR-r) 県重要度：A 「－」

葉は細長い楕円形で鱗片が捻じれている。崖地や石垣等に好んで生えるが、高鍋湿原 には東部
湿原の林内に 1 株だけしかない。県内では殆どの自生地が消えている。南限域になる。

分布：県内 県北、県西、県中 県外 本州、四国、九州。 朝鮮半島、中国南部

ヘビノボラズ メギ科 *Berberis sieboldii*

絶滅危惧Ⅰ類(EN-r) 県重要度：A 「－」

落葉性の低木、幹は暗灰色、葉はやや革質で倒卵形、長さ 6cm、幅 1.5cm 程度である。 先が刺状になった細鋸歯がある。春に黄花を咲かせ、果実は約 5mm の球形で秋に赤色に 熟する。九州では宮崎県の東児湯地区のみで、本州から隔離分布し南限でもあり、非常に貴重である。刺が多いため蛇が登れない木の意

分布 県内 川南町、高鍋町、新富町。 県外 本州(中部、近畿) 日本固有。

カガシラ カヤツリグサ科 *Scleria caricina*

絶滅危惧Ⅰ類(EN-r) 宮崎県重要度：B 「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」

草丈 5-20cm の小型のシンジュガヤの仲間。葉、茎、花序まで全草淡緑色で軟弱。花序は腋生で密に小穂を着ける。本県の現存は東児湯地区のみ。高鍋湿原には極まれであったが、今回の調査で広範囲に広がっていることが判明した。

分布：県内 川南町、高鍋町、新富町、高城町等

県外 本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄 台湾、インド、東南アジア、豪州

ミズトンボ ラン科 *Habenaria sagittifer*

滅亡危惧ⅠB類(EN-r) 宮崎県重要度：B 「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」 「－」

7 月～9 月頃に緑白色の花を総状に多数つける。花期になると茎は単立して高く伸び、 40cm から時には 80cm にも達する。花の唇弁は緑色で、十字架型の特異な形をしている。距は長さ 15mm 前後で下に下がり、先端が丸くふくらむ。形は面白いが、全体に緑っぽいので目立つ花ではない。宮崎県の自生地は限られ、個体数も少ない。高鍋湿原は県内最大の群生地である。

分布：県内 県北 県西 県中 県外 北海道、本州、四国、九州 中国

オオホシクサ ホシクサ科 *Eriocaulon buergerianum*

絶滅危惧ⅠB類(EN-g) 宮崎県重要度：C 「－」

水田や湿地に生える無茎の一年草。草丈は 15-30cm になり、葉の長さ、幅とも大きく、ホシクサ類では全体的に大型。頭花は果期でも白い。県内各地にあったが現存は極めてまれとなっている。

分布：県内 児湯地区、霧島山麓、宮崎平野、串間市

県外 本州、四国、九州、沖縄県 中国、台湾

サクラバハンノキ カバノキ科 *Alnus trabeculosa* .

絶滅危惧Ⅱ類(VU-r) 宮崎県重要度：A 「準絶滅危惧(NT)」

落葉性の亜高木、雌雄同株、樹皮は灰褐色である。葉は短柄があり長さ 10cm 程度でサクラの葉に似ており先端は腺点となる。花は葉の展開前で、果穂は毬果状となる。九州には本県だけに分布し、南限となる。

分布 県内 日向市、川南町、高鍋町、新富町、木城町

県外 本州(茨城県、新潟県以西) 中国

スイラン キク科 *Hololeion krameri*

準絶滅危惧Ⅱ類(VU-r) 県重要度：B 「－」

日本では東海地方から九州に分布する。高さは 0.5-1 m 程になり、直径 3-3.5cm 程の 黄色い花を 9-11 月に咲かせる。多数の都道府県で絶滅危惧種の指定を受けている。

ホザキノミミカキグサ タヌキモ科 *Utricularia racemosa*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-r) 宮崎県重要度：B 「一」

水際に生える食虫植物で、茎は土中をはい、地上の所々に長さ 2-3.5mm の葉をつける。仮根に捕虫囊をつける。花軸は 10-30cm で、ミミカキグサ類では最も大きい。花期は夏～秋。淡紫色の花を数個つける。

分布：県内 県北、県中 県外 北海道、本州、四国、九州、沖縄県 朝鮮半島、中国

ミカワシンジュガヤ カヤツリグサ科 *Scleria mikawana*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-r) 宮崎県重要度：B 「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」

草地に普通なコシンジュガヤに似て時々誤認されている。湿地に生える、草丈 40-60cm の中型の一年草。コシンジュガヤとの違いは葉の鞘が密接に茎をかこみ、全く翼がないので、注意するとすぐわかる。和名は発見地の愛知県三河地方にちなむ。

分布：県内 川南町、高鍋町、新富町

県外 本州(南関東、東海)、九州 インド、アフリカ

ミズギボウシ クサスギカズラ科 *Hosta longissima* var. *brevifolia*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：A 「一」

葉は日本産のギボウシ類では最も細く、幅 2cm 内外、長さは 15-30cm、表面は光沢がある。花茎は高さ 40-60cm。花期は 8-9 月で、花茎上部に長さ 4cm 内外の淡紫色の花をつける。九州唯一、南限。

分布：県内 県中 県外 本州(愛知県以西)、四国 日本固有

ムラサキミミカキグサ タヌキモ科 *Utricularia yakusimensis*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：B 準絶滅危惧 NT

湿地の泥上に生える食虫植物。地下部に捕虫囊をつけ、地上葉は小さく長さ 3-6mm。8-9 月に 5-15cm の花軸を出し、淡紫色の小さな花を 2-3 個つける。軸につく果実の様子が耳掻き状なのでこの名がある。県内のミミカキグサ類は 3 種あるがその中では最も希少。

分布：県内 県北、県中、県西 県外 北海道、本州、四国、九州 日本固有

ミソハギ ミソハギ科 *Lythrum anceps*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：B 「一」

高鍋東部湿原の入口の右側にだけあったが、次第に増えつつある。日本各地で盆花として利用される。花が美しく、高鍋湿原には欠かせない植物。エゾミソハギとの中間型の雑種が多生しており、かつてはエゾミソハギが混生していたのであろう。

萼裂片の付属体がエゾミソハギは横向きに開出しているが、雑種のアイミソハギは横向きでなく目立たない。

コキンバイザサ キンバイザサ科 *Hypoxis aurea*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：C 「一」

湿気のある草地に生える小型の多年生草本植物。6 月ごろ黄色い花を根元に開く。花後に 20cm ほどの細長い葉が伸びる。近似種のキンバイザサに比べ生育地が少ない。

高鍋湿原には、東部湿原にある。2013 年には 10 株ほどあったが、1 個体確認。

分布：県内 各地散在 県外 関東以西、四国、九州 中国、台湾、インド など

ツクシタチドコロ ヤマノイモ科 *Dioscorea asclepiadea*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：B 「絶滅危惧ⅠB類(EN)」

茎の下部は立ち、上方はつるになる。葉は互生し、三角状披針形で硬く、基部は心形、先は長くとがり、長さ 8-17cm、基部の幅 4-7cm である。春に黄緑色の花を多数つける。雌雄異株。北限。種子島から北上し、延岡市に入るとタチドコロになる。

分布：県内 各地散在 県外 鹿児島県

ツクシクロイヌノヒゲ ホシクサ科 *Eriocaulon kiusianum*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：C 「絶滅危惧ⅡB類(VU)」

無茎の一年草。草丈は 5-20cm、葉は 10-15cm となる。頭花は扁球形で径 4-5mm で総苞片とほぼ同長となり、黒味を帯びる。冠水すれば葉や花茎は軟弱となり、水の深さほどに草丈も伸びるが、冠水しないときは葉も花茎も平開し、ロゼット状になる。

分布：県内各地の平野部と霧島山系 県外 九州 九州固有

ニッポンイヌノヒゲ ホシクサ科 *Eriocaulon hondoense*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：C 「一」

溜池畔や湿地に生える無茎の 1 年草。葉は多数束生し、披針状線形で長さ 10~20cm になる。8-10 月に花茎が伸び、先に半球形の頭花を着け、周りに披針形で鋭頭の頭花より長い総苞片が開く。

分布：県内 各地散在 県外 北海道、本州、四国、九州

クロホシクサ ホシクサ科 *Eriocaulon parvum*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：C 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

無茎の一年草で、草丈 10-20cm ほどの小型のホシクサ類。生育地の中心は早期水稻水田で、平野部の湿田に発生する。しかし、殆どが耕作管理の変化で殆どが消えている。一年草であるため、翌年に必ず発生するものではない。頭花が黒く、葉は細く、先が尖っている。

分布：県内 平野部の各地 県外 本州、四国、九州 朝鮮半島

ヤチカワズスゲ カヤツリグサ科 *Carex omiana*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：C 「一」

貧栄養の湿地に生える小型の多年草。葉は幅 1.5~2.5mm で、花茎より短い。花茎は高さ 30~60cm、花序は 2~5 個の小穂をやや接近してつける。果胞は熟すと著しく反り返る。種類が多いスゲ属のなかでも特徴的な種。霧島山が南限。

分布：県内 県中、県西 県外 北海道・本州・四国・九州

クロタマガヤツリ カヤツリグサ科 *Fuirena ciliaris*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：C 「一」

湿地にはえる開出軟毛のある 1 年草で、根茎はない。茎は高さ 10-40cm。葉は扁平で、長さ 10cm ほど。頭状の花序を着け、3-10 個の密についた小穂からなる。小

穂は長楕円形、長さ 4-7mm、幅 3mm で、黒灰緑色。鱗片は長毛があり、外曲する芒となる。

分布：県内 県内の平野部に稀に生える。 県外 本州(千葉以西)、四国、九州、沖縄

ケシンジュガヤ カヤツリグサ科 *Scleria rugosa*

絶滅危惧Ⅱ類(VU-g) 宮崎県重要度：C 「一」

湿地に生える小型のシンジュガヤ類。この仲間の果実は小さいが真珠のように丸い。地下茎を持たない一年草で、きゃしゃな植物。せいぜい 30cm。全体に毛がある。花序は小さめで、葉腋の小枝か、小さな穂状に見える。

分布：県内 県中

県外 本州南部から琉球、台湾、朝鮮、マレーシア、インド、オーストラリア

マネキンジュガヤ カヤツリグサ科 *Scleria rugosa* var. *glabrescense*

絶滅危惧Ⅱ類 (VU-g) 宮崎県重要度：C 「－」

ケシンジュガヤの変種で形状は似ているが、全草にほとんど毛がない。

ヒナノカンザシ ヒメハギ科 *Salomonina oblongifolia*

準絶滅危惧 (NT-r) 宮崎県重要度：A 「－」

湿気のある草地に稀に生える小型の草本。果実は花茎に固く着き、腎形で、扁平、稜 上には 2 列に小歯が並び、まるでカニの甲羅を 2 つ張り合わせたよう。

サワシロギク キク科 *Aster rugulosus*

準絶滅危惧 (NT-r) 宮崎県重要度：B 「VU－」

晩秋まで咲き続けるアスターの仲間。花卉は次第に赤みを帯びる。多くの県で絶滅危惧種に指定されえている。

サツマアザミ キク科 *Cirsium sieboldii* subsp. *austrokiushianum*

準絶滅危惧 (NT-g) 宮崎県重要度：B 「絶滅危惧ⅡB 類 (VU)」

湿地に生えるアザミの仲間。九州には湿地性のアザミは本種のみ。マアザミ（キセルアザミ）の亜種で、九州の湿地のものは全て本種となる。蕾期から上向きである。

ニラバラン ラン科 *Microtis unifolia*

準絶滅危惧 (NT-r) 宮崎県重要度：B 「－」

草地に生える多年生のラン科植物。草丈 5－20 cm で、葉は円形の単管状でニラには似ない。全草明るい緑色で、4－5 月に咲く花も緑色で映えない。東部・西部湿原にかなり広がっている。

分布：県内 県中 県外 本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄県 中国、台湾、豪州

リンドウ リンドウ科 *Gentiana scabra* var. *buergeri*

準絶滅危惧 (NT-g) 宮崎県重要度：A 「－」

リンドウは葉の幅が広く横に平開し、茎が倒れて蔓状になるものが多い。川南湿原には葉が細く斜上する固有種のヒュウガホソバリンドウがある。高鍋湿原にもかつては自生していたと思われるが今は見出せないが、リンドウとの自然交配種であるタカナバリンドウが西部湿原で見ることができる。

ヒメノボタン ノボタン科 *Osbeckia chinensis*

準絶滅危惧 (NT-g) 宮崎県重要度：B 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

低地の草地に生える多年草。高さ 20-60cm になり、8-9 月にピンク色の草丈の割に大きな目立つ花を着ける。雄しべは 8 本、雌しべは 1 個。朝の咲き始めから 夕方しぼむまでに雄しべと雌しべが動く。

分布：県内 各地 県外 本州（和歌山）、四国（高知）、九州、沖縄

コバギボウシ クサスギカズラ科 *Hosta albo-marginata*

準絶滅危惧 (NT-g) 宮崎県重要度：B 「－」

北海道、本州、四国、九州までの広い地域に分布し、日当たりの良い湿った草原や湿原に自生する。花期は 7-9 月で花茎は高さが 30-50cm くらいになる。葉柄に翼がある。

イトイヌノヒゲ ホシクサ科 *Eriocaulon decemflorum*

準絶滅危惧 (NT-g) 宮崎県重要度 : B 「－」

シロイヌノヒゲやニッポンイヌノヒゲと同じ仲間であるが、全草軟弱で茎は折れやすい。これらとは総苞片が柔らかで透明感があり、柱頭は3個でなく2個となる。

カキラン ラン科 *Epipactis thunbergii*

準絶滅危惧 (NT-g) 宮崎県重要度 : B 「－」

黄褐色の花を茎の先に10ほど総状につけ、下方から開花していく。花の唇弁にある紅紫色の模様が目立つ。和名は花の色が柿の実の色に似ていることに由来する。ロシアのウスリー、中国東北部、朝鮮半島、日本に分布する。日本では北海道、本州、四国、九州、種子島、奄美大島にかけて広く分布する。

ゴマクサ ゴマノハグサ科 *Centranthera cochinchinensis* ssp. *lutea*

準絶滅危惧 (NT-g) 宮崎県重要度 : C 「絶滅危惧Ⅱ類 (VU)」

茎は直立して高さ10-60cm、分枝しない。葉とともに剛毛が密生する。葉は広線形で、長さ1.5-6cm、幅2-8mm。花は8-9月。葉腋に長さ2cmの黄色い花を1個つける。花や果実の形がゴマに似るのでこの名がある。

分布 : 県内 各地散在 県外 本州、四国、九州 朝鮮半島、中国、越

シロイヌノヒゲ ホシクサ科 *Eriocaulon sikokianum*

準絶滅危惧 (NT-g) 宮崎県重要度 : C 「－」

貧栄養な湿地に生育する無茎の1年草。葉は線形で長さ12-18cm。先はとがる。花茎は高さ15-38cm、総苞片は頭花よりも長い。頭花は半球状で、総苞を含み径8-10mm。開花期には雄花や雌花の上縁、花苞の上縁から背にかけて白色棍棒状毛がよく目立ち、頭花は白色となる。花の群れは、白色の絨毯となる。

分布 : 県内 各地の古くからの湿地に稀 県外 本州、四国、九州 朝鮮半島

(2) その他の希少種

レッドデータ種ではないが、希少なもの、花が美しいもの等、将来にわたり保護保全が必要と思われるものには次のようなものがある。

ウナギツカミ タデ科 *Persicaria aestiva*

湿気のある林縁に生え、やや蔓状になって立ちあがる。晩春から初夏に小さなつぼ状の淡桃色の花を開く。秋咲きのアキノウナギツカミより小型でひ弱い。

オンツツジ ツツジ科 *Rhododendron weyrichii*

ミツバツツジ類の一種。この仲間はふつうピンク系の花をつけるが本種は朱色で大きく目立つ。鹿児島県(川内)、熊本県(天草)、長崎県(西部)以外は太平洋側が分布の中心で宮崎・大分県から四国、紀伊(和歌山・三重)に分布する。

オミナエシ オミナエシ科 *Patrinia scabiosaefolia*

秋の七草。本来は草原の植物だが高鍋湿原には西部湿原にわずかに自生がある。保存会による徹底した保全により繁殖している。

オオユウガギク キク科 *Aster robustus*

本州の中部以西、四国、九州に分布する多年草。湿地や小川の縁、田のあぜなど、比較的日常のよい草地に生える。一見するとヨメナによく似ているが、冠毛が長い。

サワオグルマ キク科 *Senecio pierotii*

本州、四国、九州、沖縄に分布し、日当たりのいい山野の湿原、水辺、耕作放棄水田、水田脇などに自生する。花期は3月末から5月ごろ。

フトイ(栽培種) カヤツリグサ科 *Scirpus tabernaemontani*

絶滅危惧ⅠA類 (CR-r) 宮崎県重要度：B 「－」

平野部や山地の池沼の浅瀬の縁に生える。茎は白みがかった緑で、名の由来どおり円形で太く1cmほどあり、高さも1mを超える大型の多年草。茎の先端に花序が着く。花序は数個の枝が出て、枝先に1-3個の小穂が着く。しばしば斑入りもあり生け花用に栽培されたものを見る。高鍋湿原のものは持ち込み移植したものである。

分布：県内 県北、県中。県外 北海道～九州、沖縄県。サハリン、千島から欧州。

なお、希少種の画像はトップのグラビアに掲載している。

VI 保全への提言

①外来種（帰化種）の侵入防止及び除去

2013年に38種あった帰化種は、2024年には34種になっているが、今後も増加することが予想される。中でもメリケンカルカヤ、アメリカセンダングサ、ダンドボロギク、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、タチスズメノヒエ、メリケンムグラ等の高茎種は在来種の生育を脅かすのでできるだけ除去したい。

外来種ではないが、東部湿原のガマ類も繁茂が予想され、ホシクサ類群落の駆逐が懸念されるので、一部を除去したい。

これらの帰化種の侵入は靴底に種子が付着して持ち込まれることが最大の原因と考えられるので、東部湿原入口とトンボの橋入口に、靴底の泥を掻き落とすマットか足洗い場を設置する必要がある。

②刈込みの時期、刈込の高さあるいは掻きとり、剥ぎ取りなどの保全の在り方は場所によって、群落によって異なるであろう。ベストな方法を探るために、コドラートを設けて年に1回あるいは2回の保全を施し、モニタリング比較をすることが大切であろう。特に、西部湿原の森林H1の奥ゾーン「I」などは是非施行すべきであろう。

③刈取ったものは、できるだけ運び出すか焼却したい。

④東部湿原のミソハギ群落は、隠蔽度が高く下位のホシクサ類やミミカキグサ等の植物の光量を奪っているので、花終了後には上部のみをカットし、下層植物への光量を補うようにしたい。他にもこのような保全をすべき所がある。

⑤西部湿原の希少なササ類は、本来は陽光の射す原野に生えているものであり、樹木層による光量不足となっており、このままだと消滅するであろう。林内を明るくする必要がある。

VII 参考文献

南谷忠志 1994 湿地湿原調査報告書～植物篇（川南町・高鍋町・新富町）

宮崎県版RDB改定検討委員会 2010 改定・宮崎県版レッドデータブック「宮崎県の保護上重要な野生生物」 宮崎県環境森林部自然環境課

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 Red Data Book2014 8 植物 I（維管束植物） 2014 環境省

宮崎県版RDB改定検討委員会 2020 三訂・宮崎県版レッドデータブック「宮崎県の保護上重要な野生生物」 宮崎県環境森林部自然環境課